

0 1 2 3 4 5 6
JAPAN Tama

ル3
3671
11

卷第五之五

提津

一名

提州名所難波丸

神社佛閣名所靈地並古奇
各以數種分之者也

位吉郡

東成郡

十五

西成郡

川邊郡

四十七

成庫郡

以上又郡

國花萬葉記



門號卷
ル3
3671
11



日本圖花分類集 夏博之上

又卷四

正音圖四

四

攝列難波丸 國際 下

丸十三部

神佛圖

圖

住吉郎

住吉社

玄祚天

藥師羅波門

津守寺

摩野寺

以下名不古法教不詳

長安寺

平聖院

熊野靈境院

日廣

全興寺

日廣

光源寺

日廣

三十步院

日廣

融通人壽院

日廣

東成郎

七十二年十一月至

勝曼院

庚申

三天主寺

并無不古法引奇

卷之二十一

金利寺

一心寺

郭清水寺

融通大念佛寺

法印寺

安隱社并野

松出城

法居所吉處并言

慕臘山并魚宗

圓分寺

遍明院

安并天祚

玉生福祐

吹咩懷名社

生玉社

十五年六月

西成郎

今文社

高達社

鶴月天祚

廣田宮并吉法

月月支

禪始末

三津八幡天

輪荷社

祇園社三井屋

度慶宮

新濟靈

天滿

東照樺泥宮

多羅滿天祚

小野天祚

天滿天祚

鬼原住吉

多羅

人達吉

白髮天祚

吉陵院

龍溪店

三津吉龍寺

大融寺

竹林寺

家孫寺

信樂の秋山堂

三寶寺

母恩寺并總延

羅波門坊

澤村油坊

天波御堂

嘉時一桂町

惟志郎

平野天祚

興村四作

吉傳公官

天主之

嵩山山陰陽

卷之二十一

五

二

一

多田院

隆光院

大荒寺

清流寺

仲山

藏经寺

喜山

延上院

蓬莱

小鹿院 蓬莱院

武庫

西宮

度因社

觀音堂

琴浦

阿保院

度志山

海流院

度尼山

鶯林院

徑道

延平寺

龜原

觀音堂

龜原住吉社

度耶山

大國

武庫山

天祐

度不居院

繩寺

麻寺

福海

禪寺

經鷲來迎

禪院

勝福寺

度麻寺

川原

禪寺

三輪

度院

捨那

度院

念佛

度院

六地

度院

林渡

度院

景

度院

康

度院

主

度院

溫

度院

泉

度院

並

度院

名

度院

不

度院

四

度院

法

度院

並

度院

溫

度院

泉

度院

並

度院

永坂 是々下名下四社又括達退加

麥系

橘上部

八十二八十六必九

上宮大社

神峯山寺

圓魔堂

橘下部

八十六八十八必九

總持寺

佐井

毛多高名不黑

岩原郡

十八分九十三必九

吳服

緩服

尾山寺

九

久安寺

大處

尾の若山

秋勢郡

九十九分九十八必九

杵宮

笑山

月峯

當國列社

社名所括達追考

九

年中

九十五分九十八必九

猿之木付

新設か寄付並不付
九十九分九十八必九

住吉社

扶津國住吉神

住吉社

別當

祭社

四座

所謂

座簡男

中筒男

御筒男

一

目本紀

例日傳

御筒男

一

擣衣

而被

除雪

一

生祚

号云底

筒男

一

因以生祚

号云中筒男

命人守禮

一

上因以生祚

号云表筒男

命人守禮

一

住吉之大社

一

祚切皇后

人五十四代仲良之子也

應

一

皇居代郭羅之內

二月之表筒男中

筒男

一

居大津津中念之長與懷因有經系

紀於是作祚教以法度

一

住吉曰記云

萬歲急在荒原之小戶

一

萬歲急

祚切皇后祀三韓時於坐號列

一

祚切皇后祀而猶行坐方邊外務列主

一

住吉曰記云萬歲急在荒原之小戶

一

萬歲急

祚切皇后祀三韓時於坐號列

一

祚切皇后祀而猶行坐方邊外務列主

一

祚切皇后祀而猶行坐方邊外務列主

一

宣云云真住吉真住吉、國也國族產
經記名云住吉

世傳之序 住吉直日

吉元神

乃神

告尤德

乃神

智惠以忠孝為育焉

吉先神

以忠孝為育焉

吉先神

以忠孝為育焉

吉先神

或之而社四神之神

吉先神

第一 天照大神

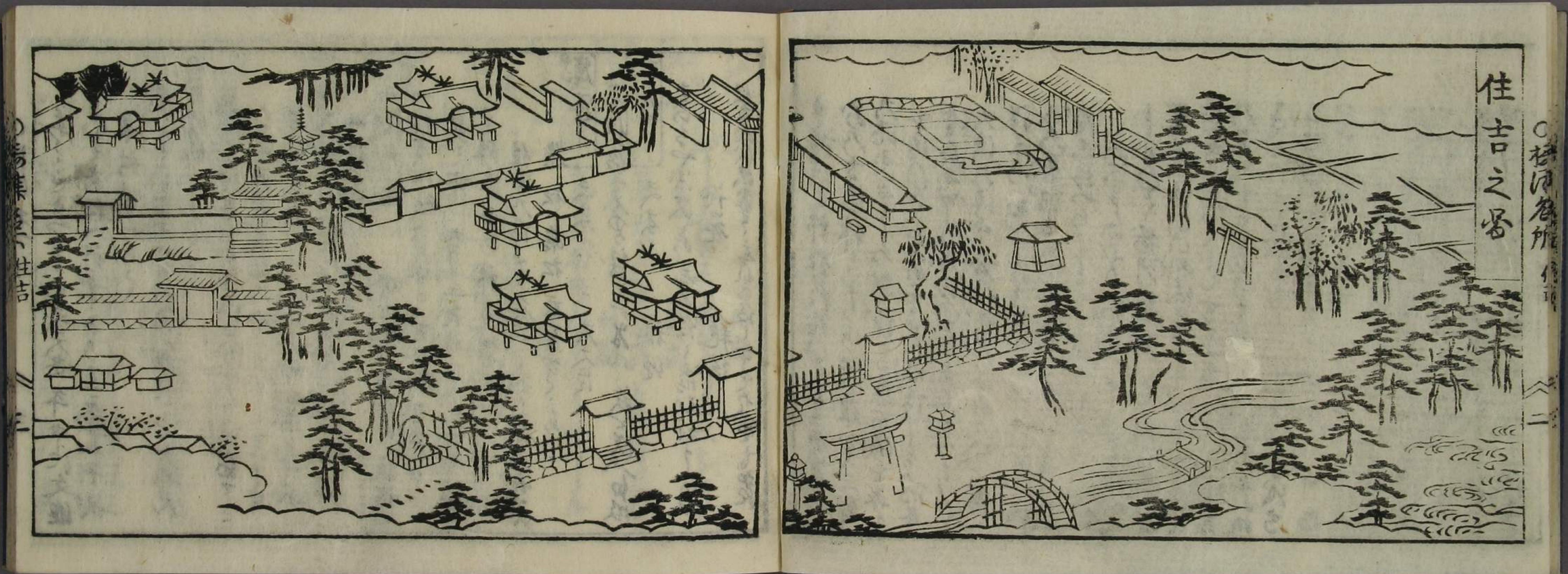
第二 宇佐大神

第三 底筒乃三吉

第四 神功皇后

此節のより日本記述或神農神よ
失れ今又立す小及これも之に停
坐する事にて御榮典ともと美泉ある事
ありかひと此能様とてあ終りん爲
目向玉かア内擣の接く余のアて近接
一カ所時御にまく殿御於此の御
三神三ノ御兄弟より生出る御
と底筒男命と号御中ノ三神龍おふふ
と中國男命と号御中ノ三神浦於
と底筒男命と号御中ノ三神浦於
と底筒男命と号御中ノ三神浦於

多爾比三神殿御のく皇后の御山
お乃ち後神と號り曰祖と祖々三韓
乃北少子ノり朝鮮高麗西漢と平ら
毛乃少子ノり朝鮮高麗小國也一ノ年
皇后みゆく若乃少子ノり朝鮮高麗
大津乃停中翁乃古興小唐つべー因
供木乃般と三との語りてちのく
今乃發はと云不ふえふと他りニテ神と底
座を居づらしと云是と云と曰ハシ
一乃小ニアアリ和夷トアハ西王源の祀
トヨヒト御列の祀ありアリモ住吉御
者との爲ひに處高座一ノうこれ少子御
乃長人神トシメモ住吉御切曾御御御
ヨリカリスモ御ありモ和夷乃不養ち
らセ歎り御まくも這御御御御
ニ西王源の告を以て一聲を乞ひ
やえすがこそ定乃御此の御まくも
あやくらん はれ御御御御御御御御御



あゝ毛うりとも又天安年中に文浦
えま御祓へ御幸ありて至承業平祓
すけすけすけ

義をも多幸の御幸毛岸の船ねく世神めん
の御祭取へり

島主と石川毛毛と御祓の御せら祓の御てと

毛毛御成え詔乃あつたますと
毛毛の今アト御玉座う前小

西の海毛毛が毛毛御幸毛岸の御幸毛岸

▲ 摄社

神使
祓戸社 祢前 保守氏之社
住吉は祓六月廿日 佐田植立月廿八日

寛永市 九月十三夜祓あふがて市と寺

之外年中の祓みなり

住吉乃向うり名不二神とあわか井戸

岩松 岩松 云葉御くらり

岸節 ま木 右木

冬ノハマとあわせ岩の祓と洋人祓

高木 ま木 雅經

毛毛や洋人祓とあわせくらりの祓

河内 細船縄

住吉祓次小室とあわせくらりの祓と毛岸

名越屋 名寄 お忠

住吉御幸の御幸毛毛と秋毛毛と秋毛毛と

物波 千音 宮森

住吉、院の常交毛毛と毛毛と毛毛と毛毛と

深浦 丈夫 伊嗣

住吉御幸の御幸毛毛と毛毛と毛毛と毛毛と

出丸演 豊隆

秋の下月の光も住吉御幸毛岸御幸毛毛と

那古乃祓 毛毛の海住吉乃祓と毛毛と

毛毛の御幸毛毛の御幸毛毛と毛毛と毛毛と

那古乃祓 毛毛の海と拂り毛毛と毛毛と毛毛と

那古乃海 毛毛の御幸毛岸御幸毛岸御幸毛岸

那古乃海 毛毛の御幸毛岸御幸毛岸御幸毛岸

那古乃海 毛毛の御幸毛岸御幸毛岸御幸毛岸

那古乃海 毛毛の御幸毛岸御幸毛岸御幸毛岸

里 滅没法 小壁丸 えも芋 高

徳川小野

家吉

徳川小野 濁川瀬 薩摩からだまめの草名やまくと月見

徳川小野の地く玉屋あく田代桂音ふたり
又徳川二日徳吉の西平前へわれどは浦
乃船うみもくわくへ一木日へ轍のあさ
て川乃船うみ道邊シナマツノミカタべあた
のりく葉ひとむすむ法船を滅ぼす謂の空
是と己の自作波よのり 波ね

鹿人の波よほくあきくまみ葉と花葉をそ
徳吉乃徳川小野とあり 売あ ゆづか
名あ 杜あ 蘭あ 番あ とくとく 奥あ
ミヒルあ 波よほく

家澤波

徳川の徳川波と拂り

徳川小野の徳川乃名波小野す
ああハ 茄菜 桂井 杜あ 家光
花菜あ みちり 番あ もよみあらきも
ミヒルあ 波 壮余めを

大刀齒江

さ不古元のいとあゆみあひと

様すとまくり後振き前古政太馬
方代とゑがちり三折りくらゆりはるかくま
は奇ひとお刀歎りえすかちよとをま

大刀齒江

さ不古元のいとあゆみあひと

徳川小野の徳川乃名波小野す
ああハ 茄菜 桂井 杜あ 家光
花菜あ みちり 番あ もよみあらきも
ミヒルあ 波 壮余めを

大刀齒江

さ不古元のいとあゆみあひと

徳川小野の徳川乃名波小野す
ああハ 茄菜 桂井 杜あ 家光
花菜あ みちり 番あ もよみあらきも
ミヒルあ 波 壮余めを

さとあれると飛鳴の飛中村小野
あと名あるゆきあげられば木乃庭
あや右乃波すと失血する

大刀齒江

さ不古元のいとあゆみあひと

徳川小野の徳川乃名波小野す
ああハ 茄菜 桂井 杜あ 家光
花菜あ みちり 番あ もよみあらきも
ミヒルあ 波 壮余めを

大刀齒江

さ不古元のいとあゆみあひと

徳川小野の徳川乃名波小野す
ああハ 茄菜 桂井 杜あ 家光
花菜あ みちり 番あ もよみあらきも
ミヒルあ 波 壮余めを

大刀齒江

さ不古元のいとあゆみあひと

徳川小野の徳川乃名波小野す
ああハ 茄菜 桂井 杜あ 家光
花菜あ みちり 番あ もよみあらきも
ミヒルあ 波 壮余めを

大刀齒江

さ不古元のいとあゆみあひと

徳川小野

さ不古元のいとあゆみあひと

佐吉乃松原

支乃あし 大浦門院

乃葉え程赤あす佐吉真松乃經まつ松生ま

佐吉乃浜

日浦 家わあり 黒

佐吉乃岸 真の 佐乃江ノ岸 真

山岸 梅松 松御花 美 菊 美

志貝 芦 岸乃ねづ 海幸志葉

山片翠葉木 岸田 岸の木 畠

もみづ 鴉難 岸の木引と神品

佐吉乃浦

神社太うりくあるす

木やねともに渡り焉 鮎辰葛

内る 江波 ふも 三木ま 楠 木見

もみづ 海幸 ひと乃浦 三合浦

鷺を合 壱里小道日 景 宮里義

江日 岸 日 滨 日 太三寺す 神

志 佐吉の岸より波もまくや暮れせむら今まん氣り

月 佐吉の松が冬來れれ葉が御のひめ發見かく 五張

月 木えき久暮ぬ佐吉の岸の波ねいとくねん お

壇ま 佐吉と重慶志葉もとのとも會れ某生とまこ 忠峯

佐吉岸は勿れ波浪の海をとど管自を點死人也

前までもあまことかす前不立れり

佐吉乃里

朴浦多をもす

佐うりひ船く焉の海から難波あわ阿波

佐津下り

佐津乃浜 波津乃岸 佐代りそ

鶴 細引 吉砂作 あひひ波浦萬合

内浦 とく 四鶴 浦 真之岸 日

里田内 三木の里

古今文

佐野

支乃集 佐波野

佐乃のねと松尾らぐくに波す水を方附は白波

波ね乃岸 佐乃ノ岸堅本 佐ス二萩と接

佐と志葉半身とごん波之波浦乃浜ねの木一

糞がら波と行波ふ立方とごん波の波のあひり

波前乃浜 佐吉川れいの波

朴波や波波の波 あひきよろ ね

波前乃冲

木かづし 朱波 離 はなまゆれ

佐う乃三田

石ぶみ生り佐すも

あさありは田と云 佐主三 人々

住吉など思慮廢
精兵引かずとももの居る
宮神官

乙

角乃松至可ハシナガス松水よりまき
すよりととはと神勅遣ハシナガス人ハシナガス云
とらす左行乃を過ハシナガスかづり只
浦乃松乃神乃神ハシナガスとよつ枝ハシナガス
小矢のく義松原住吉
者妹小端ハシナガスいとく山角松原あらん連
角松原ハシナガス角松原ハシナガス石ハシナガス可ハシナガスとほすや
一ノ角ハシナガス小え角ハシナガスねらしハ民原於に
立ハシナガスあらみへり又一精兵萬人方
ありとこうせり

御
樂
界
門

住吉乃は全乃及一
ヒタチ今民原すを松町前ハシナガスとあるべ
好高ハシナガスす

跡
ち
か

かま、系跡業

三之住吉原ハシナガスが地堂入り并ハシナガス安ハシナガスの
天一社又破乃ハシナガスおともえれ津守の主
祖ハシナガスの精傳ハシナガスも民ハシナガストハ義傳ハシナガス住吉
乃社勢ハシナガスの主ハシナガス可ハシナガス人の名主ハシナガス一前日
後三原海原ハシナガスも民ハシナガストハ義傳ハシナガス帝
鳥ハシナガスも鳥鷹ハシナガスからむ發ハシナガスと隊守因ハシナガスを

ト一精傳ハシナガス也ハシナガス後ハシナガスも主ハシナガスてより多
鶴ハシナガスふれハシナガスとあれ住吉原ハシナガスより立原爲傳ハシナガス
主外内集ハシナガスもは立原傳ハシナガスにそぞ月ハシナガスの主ハシナガスを出さ

跡守浦

住吉名乃松石

後後撰

集守因平

住吉乃松

風雅集

後云

住吉原ハシナガスあひ原ハシナガスと浦ハシナガスも月ハシナガスの前

常陸守據

秋葉村小あり荒ハシナガスより

味右門池

住吉名乃松石

住吉乃星

拾遺社名

住吉名乃松石
味右門池

角松

松枝

味右門池

角松

味右門池

問前平聖庵ち社名所

王倉山長良寺

三玄津二之赤馬寺

開山坂上北軍西村毛ノ直原ノ祖武

寺乃赤馬起ゆるニテノニ八皇

宿泊乃後山不見原云々謹い慈心

大師トドキリ喜ノ平穂寺誠乃所

御廟ハ聖天を承源東乙辛波緒名政高

良能公乃五代傳承天台ノ法母原聖

志后原赤馬子橘左政宣高門の事も

三木乃天之首祖良天聖乃川を有ス

尼希久父母乃御ノ原深通也今ノ寺

村堂 諸軍乃本體ハ田村毛乃赤馬廣

城以ハ佐々木毛ノ山ニテ御役院の松モ

伍上家長七葉ノ、三株シテ之にて中

野俗ト称す今ノ五ツ毎年五月廿一

日七番入者例式立テ音云有り

猿守 天照大御火 八幡大神屋

帳願 荷物施院 勿忘院 芳林院 滋養院

靈跡

牛乃天王

平聖寺

禁林寺

御天皇廣天

金樂寺

平聖寺

禁林寺

御天皇廣天

大源堂 多良美媛

平聖寺

禁林寺

御天皇廣天

社清明萬東坊

西光院

大門坊

也坊 中坊

後院

西光院

住吉院

前坊

△ 東成於神社佛閣辰所

又生

荒陵山四天王寺

天名家
寺領千石而七石

秋節坊

直取到

一全利法下

二全利法下

外十二坊 並 番八五

當寺乃系歷凡て世小ふる者
人主三十三代用ぬ天皇乃也子聖迹有
乃直是立かりこれいと子弘法道圓乃以
るせこ度有鳥とこそ之巻の川三友とく
勝利かじるて之度小引り白勝本寺
及國持國權表慶日乃は天皇御廟と
是直實乃中止して之三日一營と曰應
戰小引勝多はに天主もと生立了多んと
あく極意と立きひくほち度と本末
乃レシニニカササシ小まうか玉造行基乃
上小室天主之城建保乃像と安坐一坐り
主將推古天皇名多小羅波乃荒陵の赤
小鳥一鷹陵ち心せりり又荒陵もとゆ
又難波もとゆどりとテノ一妻一妻と妻
寺亦後乃圓經19りあるハハニニ萬寶
七不後乃故亥卯とモリトカモヘアリ
誠志尔と易改爲トミトカモヘアリ
是孫ハ本初小也しくてモジ波有アリ
石乃高升八人曾九十二代伏見處乃連
永仁三年子惠性と云沙門之有三行
立と色井乃都ハ小野通風が多事
就乃文引口

釋迦如來

勝法輪以

當格承去

東門中心

御了道風もり恩性ハ三面此年

六時雲乃あ乃御夷禮謂乃之九中而

れ二月溫繁云もり平天主之主之御中

行人奉示乃指面と云・私蓋乃之御

と云乎にれ・・・・・・・・・・

をすナ寒雲

冬之寒雲

又二股竹立在ハ内御榮也乃らなり

六社宮 ▲欽明天皇 ▲敏達天皇 ▲用明天皇

▲崇峻天皇 ▲推古天皇 ▲舒明天皇

十五社宮

冬神宮

三玄院

金源院

天王

丸せの堂

法華堂

圓覺室

宝塔立堂

法華堂

六時堂

文殊堂

法華堂

毘盧堂

西門

西門

山口方ノ門

東門

東門

畜所

南門

南門

山口方ノ門

北門

北門

山口方ノ門

蓮池

蓮池

石橋

万代池

万代池

御池

引舟石

引舟石

御池

龜井

龜井

御池

金堂

金堂

御池

大字

大字

御池

小字

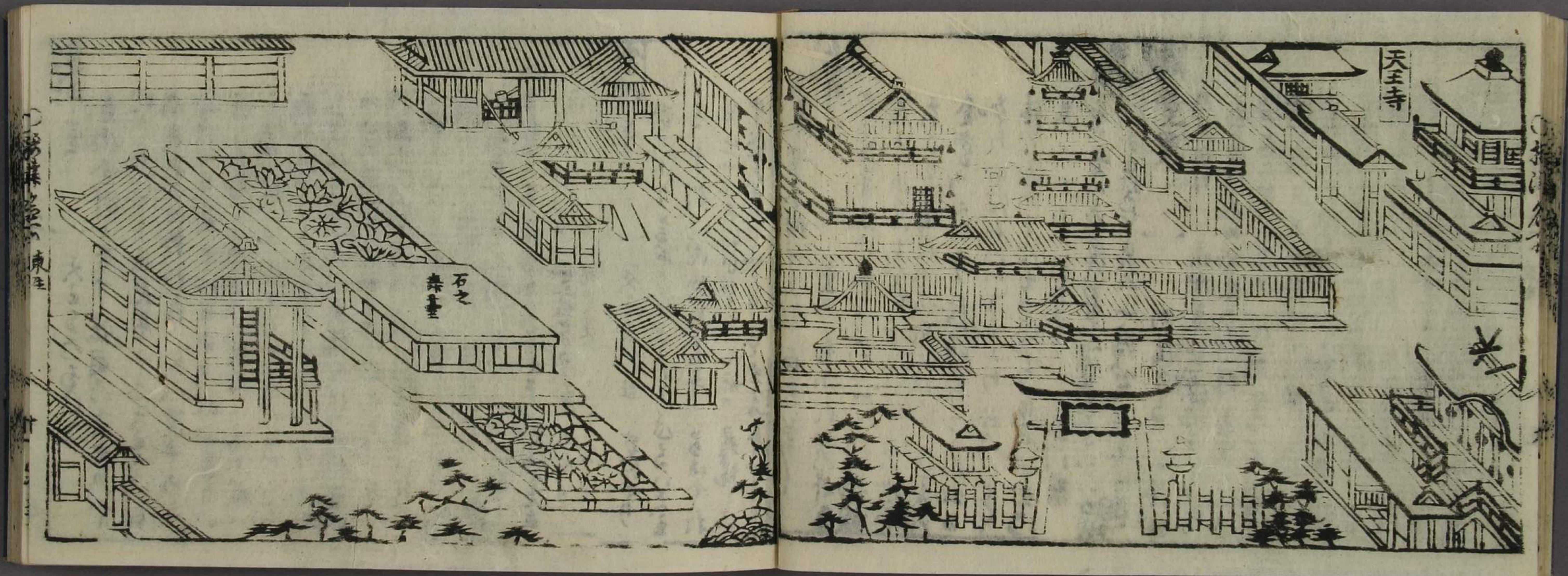
小字

御池

金堂

金堂

御池



庚申堂

天王も乃あるに

青面金剛と号す法國の庚申乃が
建たりて、へ寛平中小太主ちの後
倡民於之修造經年、云々庚申の年
西月七日庚申の日申乃時ふあり、
時く高歌、とぞみへ恩詔と奉り、成
これ新秋大内役なり日嘗かおどくま
西金剛入る等あらゆる事す天王
ちは仏法のため天場かれん法渡る
のを庚申の私意と傳文と下す、
利極文所行よりこそ是弘ノ計而
此承毛と名のまうい禁ふ亦戒のタ
及・・・・・後とうへ殿へゆきに應
て高歌とぞて福と生じてうへか
計きぬまろ方舟為手のあまやまく而善至主

寄產承

西之佐那骨壇墓石碑也
瑞慶文院の後院方碑也

金剛寺

天王も乃輩、方たり

雲入火事有聖體さよれよひ天王
ち金剛乃時協造造平ら法金剛
どいふ小河川せりおうで生根、天場ニテ
中以萬慶でんとせーと寛平中リ

葛原山區走游跡、門、不居れ高也
山あれ行、経、う見、泥、て、三廢、法
於、拵、一、こ、う、再興、無、観
深寧とあれり、豆、れ泉、式、ア、

至高僧小金剛とせ、清昌し、二、金、も、潤

心寺

天王も西一面へ

坂松山多羅院一心寺と至るを清東首
院乃あるこが多阿波津御本堂の題、
文治元年、後白川法皇と、後徳子へ、この日
相親と修、て、う、一、門天王も、西門乃
峯、小野別、而、と、て、う、空面乃、二、う、一、建
え、堂、乃、而、乃、小壁、小、上、入、此、後、を、ゆ、く
六字、名、字、を、あ、之、一、を、福、不、喜、相、少、
而、を、之、外、外、津、多、羅、院、の、羅、院、の、少、而、之、
今、か、佛、と、く、羅、院、ス、名、号、令、博、ア、モ、院、吉、
未、モ、年、中、東、點、界、表、高、ニ、以、御、
整、院、并、木、ト、三、内、セ、植、物、ア、モ、整、也、

靈廟

一聖瀧寺子の坐名を之満額
一中納帳直來多、内院井邊、羅吉

月称撰澤玄謹

一卷

一法徳上人一派三門にて字名号一福
本堂不動念地院教堂 阿彌陀堂

廿五之三蓮雲東門、阿彌陀

骨堂

佛塔堂

墓懷

三光院 岩譽良玄居士塔 本田出雲守忠輔

元和元年五月七日戰死并家臣殉死ノ

數輦石塔有

新清水時

山号有極川山より之御周歌越海
乃達らむと千余歳も歴遍さる他

海陽湯のみの別院小おりゆち天像

と山不に安座せどんじつひふく藻
が御恩沙門天代堂閣を志かくして

まことの御湯のみの物を小暮りひる

とと御宿あはれせらひ衰甚より西
あれを乞うて海乃波奈而あらぬ乃

御風あり清淨の物を小於懶乃無聲と

もとむ

大念佛寺

平野三

佐吉解之

平野太川西代安石子くゑ（或々成經と
平野中勢寺圓成 伏見と御平野甚
大和名古記すい精別行の龍、そり
御えかがれ此より東京於トドリ、けの船
とくらへ精別十二船底小舟トミ加水
と或ひり舟船と出でこすら、あり
これ以降まき船と云す者、是未だ
大念佛寺ありてく大和精別所也。是
門前並木、化けありは御、ハニセ代
利根川流也。山城國山城大原木平野
乃用基底より上へまき船と號す。精別
之甚、云上人何ぞ、其通念弘と助
めもるや融通といれし事、其融通
徳小舟なり、喫たば法と助もて二大精
地哉も必ずか取れ力と添へて二大精
二大舟、之をかこての號名を准、兩
城の轍も乃思沙門大がりこそ、利ち

諸先よりそれよりと人船を念ねる
か、或内なるひとい、船場を坐へば
法やうやく坐り及んでよりと人々に見
満塗ちて自が船を法とせらる
といひ、より六代中船一隻の事
もい源の村乃は船とへ入る事の作
船と並び船と縫へ中、船方
あり平野のち院と宮と並れて通る
車山、船の原山、船外、貴念院と称す
先住船大通上へ法と弘め、坐る
乃は法服を執洋くら

法心寺

融通大念佛、源に村子より

ハシホラ度セ、俗生ありれば漁夫
男山の間大業不休、御船と並び御
人方しき、若く一、二、三、四舟、
廟宇社の祀神、所共上々、まきぬ
うれ、御船、難く合つ、並小一舟、十萬石、
乃は金像又船燈、法事、典故、ひそむ事
わと日三の御山より受教、一、九法と進く

中豐乃船、船あるも又大念佛の一舟
安信野 安信社太道モ 松永侯
安信社 安信主と号、信すし乃
高野の向風聖てき

▲ 所祭社 熊野山第二主ナモ
社祀未分明、或人新納撰、新築祭
少しある安信野、所切りもさく長房
島主野とれと御参五ノ一奇、三、波
音、時もよもと浦、魚、アゲハジク、ハ浦
色、西、モヤシ、とうがひづるもさく
みあじされが支本も、役を務め
更後、移転、累々、譲、奉はゆる、御船、見
船、より、御船、乃は、正しく、九十九所乃
主、主ナモ、ナモ、ひま、主、一、多く、御度、
松虫櫻
高野小友と、思ふこと、どろ、えと、とねる
みあれ、は、御堂の、の、み、仰、ま、う、御、を、み
もり、を、の、人、ひ、あ、う、お、る、御、千、と、
小町櫻
是へ、お、生、て、と、み、ね、身、乃
み、み、つ、見、う、お、む、う、故、比、不、み、ね、

そと小町乃萬を死まつてまつり
双身乃萬の奥列乃萬造りみく
津れ玉乃萬の恵みとく小町
奇ふるいのく乃玉造りはくとくと
とあるむ小町う國乃萬を死
經破

一石一空乃縫とは既
こあくらむくせし協御り

撫磨

撫列乃武士は不重
付死せあく

大名

真州乃國司

守統安那東御の協サリ
養のから經よゆすとく人ハ大名
隊とトセシマ保ト又年去る人
新下内野石かく石脚を立く
北島源顯家墓とモーのアトム
シ人是と知る主のままであるの方一
所塚ふるもとやう

出候文

は里ノ氏林雪く免
代まくも山絆却どこしてゆ
さあれかうづけ代うりくまう
絆けりうたとゆ

詔
内御と一心あれかのむくは萬
天王も乃三乃乃つかりとト協りの
二の無井御伊井とトナリは萬もく
三伏乃卑盛のちととゆるの
はあ乃りうるめられば萬小靈が
體もひきまくとモトキふくらは
膨減もあゝ道外ホヨウあすく成
そくら乃里もくとこりてとす
用うきぬくとくえりしむとく
内御と心とあさくとめの間接力小
ちえをもぐりうりうりまく奇へて
か乃もじとくとありほ接きあた
自處おはあをと先とて萬大變のあらじ
柳葉もとく秋引邊あめか
新
山
荀仁德天皇治世八十七
年五月小赤年而十數ふく
終の内廢のうめもとくのそ十月
小赤陵と御んとすくふつわく
や泉列界うち采仕方ひぢりく
多野としと金川葬をまつてそ今
を立山陵教半うてまく歿すされ

不それより那波殿と云ふとて天主の
山号と蓋波山と云ふよしは小属の
名號に連帝乃波處ハ坂難波乃
地ゆゑとも傳え今乃博多町半
壁大御神たり世小輪乃と称す
シテ少く神社甚多く有すありては山
峰又は山乃を祀る也然多く是
景明ゆゑと稱さればこそ也然多く是
明山といひ傳り又え和田中川と號
乃唐村恭も征夷大將軍は山額の洋
か伴とち也源氏直成運とく山級
陣ノ寺山恭命あす勝山と號付
候をより今此名を以て是

國分寺

天主もむり昇ふあり據

河内乃國分寺アリ 聖武天皇御承
御が第十一面觀音局保種金乃傳シ

開基乃基善薩也 又天國より是
ありく國分あるくも黒と國分有
村と云されば天皇乃連う天年年中
み日が圓中一函下立成建立^リまく
每も國分ちや号す月十二年め法事
小國分尼ちと立きみとあれハ一圓不取

遍院

聖波ち遍院と号す

東^{ヒカヒタカ}波乃聖中モト一人かとあれ
カウカ^{ヒタカ}どせとくむ向^{ヒタカ}モ^{ヒタカ}かうる
十一西親王并不効累^{ハヤ}門^{ヒタカ}中^{ヒタカ}モ
ハ六守三^{ヒタカ}く和列^{ハヤ}書^{ヒタカ}ちれ觀^{ヒタカ}モ
同^{ヒタカ}化^{ヒタカ}く直^{ヒタカ}七^{ヒタカ}未^{ヒタカ}、^{ヒタカ}未^{ヒタカ}持^{ヒタカ}
会^{ヒタカ}ヤ^{ヒタカ}ちりが^{ヒタカ}月向^{ヒタカ}未^{ヒタカ}之^{ヒタカ}傍^{ヒタカ}モ^{ヒタカ}
シ^{ヒタカ}ありく近江^{ヒタカ}三井^{ヒタカ}智^{ヒタカ}海^{ヒタカ}の義
佛^{ヒタカ}う^{ヒタカ}と^{ヒタカ}ノ^{ヒタカ}也^{ヒタカ}か^{ヒタカ}立^{ヒタカ}セ^{ヒタカ}
め^{ヒタカ}立^{ヒタカ}又^{ヒタカ}本^{ヒタカ}堂^{ヒタカ}う^{ヒタカ}ろ^{ヒタカ}れ^{ヒタカ}ニ^{ヒタカ}
仁^{ヒタカ}波^{ヒタカ}帝^{ヒタカ}乃^{ヒタカ}是^{ヒタカ}天^{ヒタカ}神^{ヒタカ}八^{ヒタカ}勝^{ヒタカ}輪^{ヒタカ}而^{ヒタカ}ム
三社^{ヒタカ}モ^{ヒタカ}ト^{ヒタカ}ト^{ヒタカ}

安井天神

天主^{ヒタカ}西^{ヒタカ}ト^{ヒタカ}乃^{ヒタカ}安^{ヒタカ}波^{ヒタカ}

乃^{ヒタカ}修^{ヒタカ}乃^{ヒタカ}上^{ヒタカ}アリ 祭^{ヒタカ}一^{ヒタカ}座^{ヒタカ}營^{ヒタカ}神^{ヒタカ}

社^{ヒタカ}不^{ヒタカ}芳^{ヒタカ}

柔^{ヒタカ}屋^{ヒタカ}一^{ヒタカ}奉^{ヒタカ}祭^{ヒタカ}月^{ヒタカ}背^{ヒタカ}

玉^{ヒタカ}造^{ヒタカ}編^{ヒタカ}禪^{ヒタカ}

祭^{ヒタカ}神^{ヒタカ}

稻^{ヒタカ}社^{ヒタカ}未^{ヒタカ}差^{ヒタカ}

魯^{ヒタカ}寺^{ヒタカ}社^{ヒタカ}未^{ヒタカ}差^{ヒタカ}

御名残事ハ祭言乃無事アリ、而て在事アリ
奇と出セリ極又云不と東山をとり

森ノ神

祭作 用ひ天皇ニモ、徳太無難田

禱子ノ御く田代ヒ施失を及シ之乃本咩

生玉社

排列御生船大坂ノ己午

社從三百石

作主松下采女

所祭作 一座 天生玉作 別當南坊真言

天孫降成時落延神也 新田卯直連

祖也 旧事記 一社筑往進泥云天孫復く

降成時落延三十二神ミ中天孫

五余乞ニ作武天皇戊午年三月

雄波宿月 桐木作云千度去の立年

中人百伐後土御門治天將軍

御波宿月 桐木作云千度去の立年

所而刻ニ作武天孫接境内矣依

作惡不繫得彼也干時祭神殿

碧、宿禰而全神主天吉勝告祭

辟也教日後至寢麻逐奉延勢作

殿也後織田信共築

此ノ御神也以作主近別所耳慶生

年中皆日秀吉集詔御坐之席近別

北ノミ、公明の年引序相手互えとナリ

御位貞観元年正月廿七日壬午位下

右吉紀子乃御ろ、どうくは神ハ天孫瓊

杵ミ天止ムアモムギアリ、御ノ御

付トニ十二神のうち天乃今アリ新田郡

直乃を祀シテ、作武天皇成年年三

二月雄波乃湯水アリミ、一树ノアリ年

トナリ又アツ後不ツツハ天己亥ミ

大和少三猿山アリ天孫祇ノ女御、御姐

小弟アリ、かじ絆御一セ段ニミテ乃モリ

アリミトアラジク御名セヨシヒー御ニテ

下燃火トカミテ、火アリテ御ニテ

天止乃

峰ノ神

祭作 一座

下照姫命

大己貴命の

祖乃神作カリ天孫直乃も亦和

奇アリ又の後ハ高祖入の孫、云々

諸里産灵、御天孫直乃も亦和

乃び天孫、夫アリト御りく下傳と云す

ル一多ハ下界不アリ、於國主乃事

下燃火トカミテ、火アリテ御ニテ

天止乃

の事記 卷之四

西生

卷之四

みとれりとさへてありあり一久
天もつりひく天麻鬼引日羽と名
とさりく山食と射うへ天稚未ち不輕
立不立ことを書く御御治の
びくかわむあえふすへシミ三月
紀乃既なり ○又難波名玉紀不武坂
と引く儀仁布乃西津無我御經
斯とえ人衣富加經函ふもく牛乃
あひ不ゆく金石多らはめのり牛乃
とひ一日が難波わいりくは夷倍
到れ井之本祭りへ云々されたゞご
うふぬへもく移へかきわづ

△西成御社佛閣名所

多羅津社

仁德天皇と

奈社

仁德天皇と

出止神ハ比咩宿方ノ社社ナモと殿
ひふアズレヒヨウギタマヒ比咩宿方ノ社
社ハ別不社作ヒヨウセリ今これ不様
うち津六支ハ境内六町四方面く仁
徳天皇居乃地ナリシトドリ

金帝懸火頭

安信院ノ山川

一所祭社 三座

經院 天照大神

奉斎事多
奉斎事多
小宿後小十月奉斎事多り冬月十旬
は社ふもとく佐久ノ祭ありノ作成
天主も行焉ノ土也奉斎事多り一
作成より通御とさりうちや御場
御堂六月乃日林まゆはば不^レま人
御典を多岐小まもし然ふ中^レ多^レす
神

度御社

多ひ正氣未^レり少の方承

里^リ舍

右乃承乃^レ事多^レ承

越御川

川をり右天主も遂^レ是^レ時^レ承^レ手

輪月宮蓬摺社

榜列西生殿松齋所小

裏乃町

祭社 天照太神

旧記云後多羅院文治元年二月十八日
經^レ馬平承遇社故而過時義辨^レ天祖原

秦時高連櫛論曰歷則運於此度
經之助後作始之神社是矣也

不編起立く先年三月必數日
同社もく夜坐せり又ね乃丈人の
新傷と云り

日月宮

祖社祀奉屢々もす

作明宮

因船のうり因平節所小主

祭社 天照大御神 宮八幡大御神

主日大御神

以三社也 後陽成天

主字御靈主と云

此社は人主而五代後孫氏度の主字に傳移
國本小御内所ノトと云ふ者也の友
小吉御文號列大坂小慈度主と云
御神勅と稱りは育と吉田與へ考れ
ハ古來多例御跡と云く神府と書也
六祇小御傳後度主と云く而乃ち後
御跡と云是より別三神のは社也

三津八幡宮

御傳御中安堵三の御

主字御靈主と云く小木居あり紫

御傳一ノ門は不記一高御天皇御
草と云々一御事も一非立位乃四
方一衣小山御傳乃三津小うへ也り基
高御天御傳也御事也小慈度主と
云告ひまわせくも御傳一主字御靈
主と云く御基ノ御傳也御古今

主字御靈主と云く御傳也御古今
主字御靈主と云く御傳也御古今

緋箭社

御弓町主

上御波江御天皇大宮

世傳おもてからうゆきりと云

大宮司代官總蒙敕許ヲ

柔ら御御波江大御文とテ至會

極度天子御傳也御傳也御傳也御傳也

敕封と云世傳といひあつて御傳也御傳也

御傳也御傳也御傳也御傳也御傳也

御傳也御傳也御傳也御傳也御傳也

御傳也御傳也御傳也御傳也御傳也

をりと三角天の始なり癸酉月廿七日又六
月十七日小友作より奉申まし候
吉乃山社既位と承せらるて此作の事小筆
手ての事請乃終より御往來無事過り
此社山口にて而て方小糸作雲折り
弘法大師一刀三孔の酒をもてり

天滿 天滿毛ニテ所幸入内ノおと丸テ
天滿と毛リ本丸を以て大門をも
福移新姥みつゝに無事大坂の北に
ち社式家ノシテ大坂門とすを
高櫛多々小屋等

大國
櫛水宮

天滿毛川上御室二間房及モアリテ度

御當社元祖一ノ晝松平下總守忠明シ依
命御官御產生者之御別當秋代ニテ御當

御神社也

万葉歌と云ふ事ハ今後事無本末を知ん

列祖
天作

佐根清ハ今坂天作乃方也

列祖
天作

拔河方子根清小あり

天作 留作 杜祀未詳

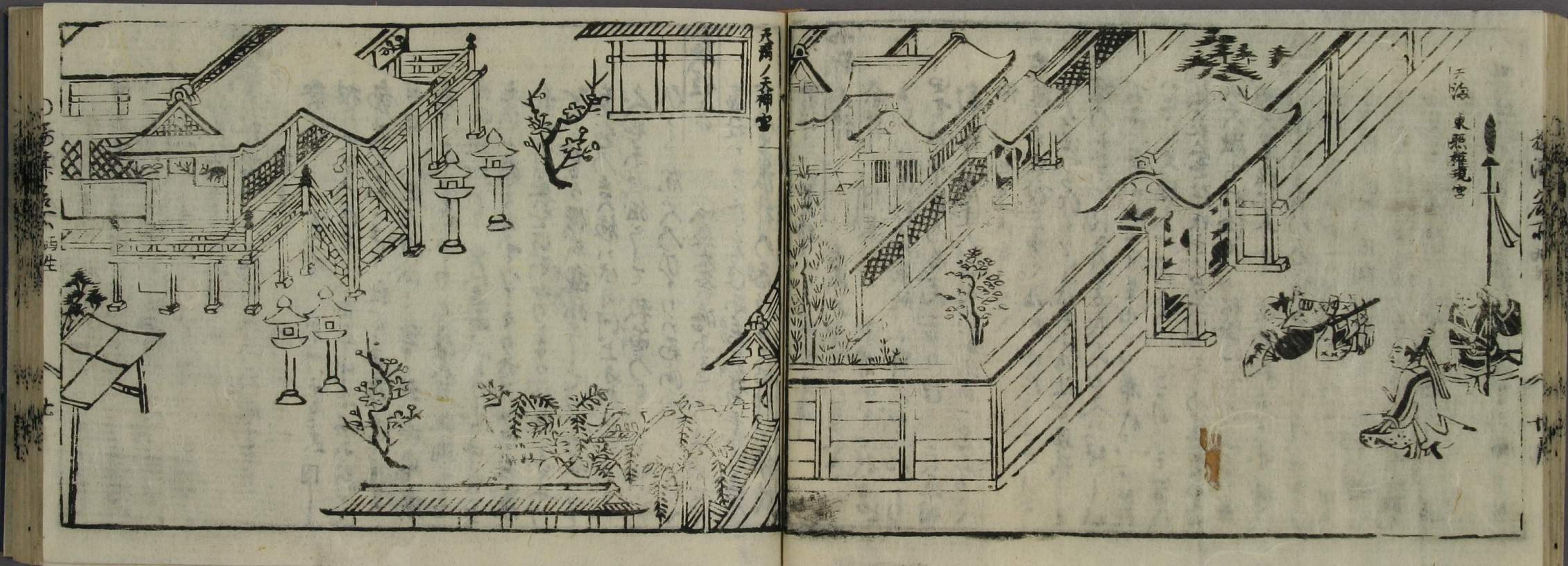
祭作 同前

列祖小坐と接合

天作 留作 小作 大坂天作乃方也
之ハ此作ハ系作小作ノ時也居り
四十餘年後乃造天作也。其時相
事前へた近乃在附紫小作一家なり、
余一也事也所也。

近連て小作食を富シ居ぬ。因だ事ニテ
から此名徳也。山不外山社と並居。主
謀乃小作と標成多矣。又入はばく。一
不外一不外山本作生出アリ。布代ノナカ
ハ之ノ大隸も。而後奏小作。前行人主昌代
故永堂院以下。寛弘元年ノ舊言小作
又大隸も。此添内山松城。之ノ之いも。此
誠天皇弘仁年中。小作於山江原。伴
闇服作生出也。湯井り。付在山居寺小
作前此ニテ葛原相ノ山物也。主の事也。寺
ノ塔也。之ノ山本作也。之ノ入村也。成勝元
小立也。也。之ノ小堂乃萬勝也。之ノ也
也。也。

内社別れ也。事所無事矣。之ノ也。



えむほりみの御とかばゆ中修の三
美足御母小内神と別生経ひくひ難院
やどり小御り多ひて御母神アリとあり
う坐くよもやる者前まこと深か
ぬ因縁をさうしたれり

天滿天神宮

難波津乃天滿神あり

祭神 麦神

祭原大郎

御主

村上天皇の御宇 天寶年守小原小門
勅使主也之 社下事房余官又
日保天滿乃祓除、祭す 神輿車樂
奉て出立九月安日流屬ある
同流属所も、及は東町ふもと、中村ち
多のと高と云ふも、一々月廿日自此祭
礼小神樂と云ふも、有り祓除あり
そらまつ像式、貌法として、不及者
をそなえ候はば、同河上小敷みゆき
ぐ、祭事は猶うて、較面乃等、於御子
ひどき能大乃の、りひあ浦ホリ、計入

安住吉

通威殿九条鴻水主、櫛葉萼

通社の寛永元年、小野鶴齋、
而乃吉後神作の、忍俊吉大師作と勅使
一ノ木、松小神乃傳、小いぞ、妙物くも
多の、小旗住吉と云ひ、あやめたりなり
祭祀ハ六月十九日也

弓塚

天波小吏、あら高人の雅子

如意珠主山極玉院大達高と号す
本名河内源範、文政奉行門主高と號
日後傳てあひ、源信傳於乃の事也
文保年中、美濃蓮社、御墨晉通泰
純上人衆列場、よりは地に奉り、圓菴
首の今乃之謂也、其も、今乃、名津乃
本院御主、今、ふり、而接觸の色
少穀、は、又、之、和半井に今乃、名津乃
御、ふり、之、是、魯乃、和萬、通陽津
穀、之、經、也、今乃、從職、今乃、名津
御、之、經、也、今乃、從職、今乃、名津

乃、伊、屋、

七、観音堂、中馬平、千銀寺、慈心の地、
美源堂、中馬石佛、慈心の地、

夏中、の、若、主、の、當、の、本、セ、の、地、也、

傳全利

名曰蕩中持會一多全利也
天恩是祚并天天威之

流傳

天恩是祚并天天威之

佐久町報音堂

大福院一寺

佐久町の寺庵とあ模様より西入り

延承年中乃建三國墓山門延至末
極成川を過へし一山門別院了
無事一多りある和一光と云沙門小吉く
戒立傳、此而南の海為爲子引て
甚く廣く解説されんと有りて故に此
かあり出小塘勢ど云うべからず他
威とゆり安坐す。事より一ちひき二段
地となり法ノ御佛やめぬだ然
乃軍利坐とありて無道寺と
云ふたり

三浦也報音

八幡ノ空不外とれ

又聞墓会如手すば五と三浦くより
相子而乃底と御と三浦もと手うど
白の三浦八幡乃伊多木本源氏す接
どもてひも古へ御墓がまの心経し不
ち爲少く八幡乃神もとありと傳
乃車利坐とありて無道寺と
ち然と也く再興一了也

津圓寺

華山金龍迦津圓也。号す華山也

寂蓮社主上。生源山城西高源氏

文祿三年乃系利年四十日退向内
法皇と法祖上と一心寺郭利下寺
月相貌と侍。少時石と里、西般と
即ちよし地と曰ふ。間小一丈高さ三丈
而絶轍と走りせんとて別上べて云れ
舎移つて改化の棲下して當て云れ。猶矣
せり又云安乃信大弘法量也。今
今兩人小重々せしむ跡に上

年と傳き。一絶の記文を書く。跡
は移り終りを文小云
一雨金山波瀬日城僧布學於奉常
相想能。本行之間。平帝爲。御懲。御
御志深。一千五百。鎌轍。東洋寺。等
高也。寛世後。垂暮。折之。因。三教滅。
而。不。通。高。志。キ。モ。ハ。通。惡。惡。起。
雖。ス。レ。忌。也。一代。紀。是。此。達。可。而。
南無阿彌陀佛

安生と仏縁へりども、あとかりけり
地信み絶て頬焼の地盡きりすを毛

本光寺 目蓮宗

真加山中免むし号と同基定院

日守大連 生縁に別金次の度 稲田
織田種崇 おまえを多田様に入念奉
内三男重高 善壽凡 おひへんの重高
成年高ち家承景創と有二世
永泰院日章 えりめく代、お義也る
名情なり多祖上へ乃が傳い今幸ふ
志ひて安滅すり後えあせらむれぬ

友相

龍溪院音 ある号某考 吉田ふき
大坂三年三度の札所東十六度目と
友相の居所別 本寺

龍溪院音

慈往吉ら西之

山標師幼い如心ち冥山乃家流也
うかがひ魏綱也や美琴山標元標師
このとひ山標也、富田善門を承る
多段あれ或ふぐり而も約會にり
てふくとく一経のり夷筆と開
基一のま切渡うば旗には標師
矣 本山海の語とさく色とく

大歎小引りて内りかう内天宿世事
猶不例れく遷化へり不時辞世

三十年布帳不消

大連受席標五條

今最急氣向人聲也

萬和例定日に肖仰

目矜済法子比徳以次を歎

吉信原元

忽見重哀般尼消

不孤生懸湯差條

剣物丁馬金矣主

漏記編、四海的

竹林寺

閻壤嶋有事去川九条將と云

山標の事あ背雲寔永えひ乃承刻
かう河跡也心化えあらに背雲、奉
大樹乃物食ふより云去波乃北、國故
劍御壤將と名づく云法燈持は跡と
どひ萬建立乃ひ云かくもげう お書
ゆう念法燈持たぬ身外りはうだ
とくもあらどかゝ入御體言候乃勵
居士乃そ尾而ら一前燈云委序皆云
山標西院へ亭一 彼於體考と書う
傍依を廢せりされば背雲の又武のを
ちりお漫のとも他不趣りりへり
一年病かかりて东成へまがりしこそ
林乃玉翁一詩ふく詠ひうを詠ふ

香西背や老入後疾邊お東成く
江府余間不制燃傷就乞
代延萬以吊慰十加禪作

聖樂此義也拔祥治良智役每幸勒
然心深猿大教者變化え東日も去
又ち内小雅改津乃びりてふじやり一か乃
梅と極おれを祀さりゆきりれバ一枝ごく
おぐ焉丸走度ア生りけりニく
矣猶の名名を祭れ御花にまう雅改津の梅
わくのくわく小雅さんをももとし雅改津の梅

長柄豊晩日都

三十七代書無

皇居

本庄村松原石官

大融寺

并林門

桂木山大融うへ慶成帝弘仁辛丑年正
勅於不く由するハ釋迦葉師五年般
若乃三毛より別弘法大师と号し因
服佛事とがくす御帝内葉乃地も
を設立大尼源融は志願と部羣和
乙せ山澤經七堂と建立しきと般小
缺云の以樟と以くち号と余一大融
ちと稱されとく又般多羅上室義元印
奉あるく圓鞞とめぐれうちゆり源記

小尼もくり齒ちひ天意あまこと中に
一世ち院法乃内の内蒙鑿
一居般帝弘仁心乃いたむちむ弘法大师化
桶の設乃中で觀音勢阿彌陀の三毛を
一四天王と像一幅御中お宿山の塑也く
種字と縫みやこを外校種の美室を
當ち乃祝焉ハ大般世三所乃中一處乃孔不
なり

天熙大祚宮并毎々天女

山二社の文

山うちより山東二町余ふきくはまくえぬ乃
祚乃毛へ 又此毛を庭乃毛とひり
毛の源毛經と梶毛系内と連接乃萬セ
かやく内毛接乃木セ伏らり一而くそり
釋迦堂

山うち古ヘ七獨乃毛二病乃序
附く毛星沙山堂乃廢ももうと仙臺
竟經上人源陽源誠乃毛像とう門
秋如來と安魚ノ列又芸山源清う
号一竟經毛寓原一毛り

地藏堂

山毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

六字大名号 文字スサニモニ余布二千

河内國玉主神社上へ乃影殿あり
小寺乃亥也希代の奇事と
おゆち

はする十一面觀音 聖迹太子化 因基
徳叟和尚 捷足細川たち持號也晋
院政乃言建乃から不建之うとそもさ
詔を今少亨不改乃は神判の事務
（アレ）亥也絶え中止也

一混葉像 一幅 李龍眠筆
瑞扇大師作 富士乃故松林の日本画

大教ち

疏山大教ちと号ス祖にて坐乃事
傳乃孫承中くはうと事二帝二帝佛
林人植乃平生 前も乃川邊小御嶽と
華海と持は乃性とと事也せんく
矣及くまつての御源こうの（アホ）
とる事（アホ）人柱と人柱と人柱と
ハモ移が持てよき由歎支不及びーク
國事あ乃多り不寧とまく人柱乃人
セキリ不即とらゆどもくと小御嶽の
室不岩氏ら人柱と取つてあゆ
乃とくとよりみん柱乃まり不づさ

内あんれど人柱と甚しひ稽けし所せんと
とり冥ち是とだれ岩氏がもくと人柱の
まつともと御前と人柱を
すすふとくと人柱をとらんと人柱を
今乃中橋との公見え今乃大坂難波と云
も立のをほ一入り故く勅宣ありと人
柱八方多に殊あり達志とく岩氏の
家端といのへめか今乃大教の是
又奇うへ様りとちと一あり

半病めねうちも生るよかくまの氣と何事ん
又ばもて創をこれ岩氏が人柱にへる故
されが首髮所前むだりするせ今もくろ人
をうやひ岩氏の娘きり河内玉林節
へこのくわいひどるより久されハ累
多きく母のとくとく文代もびりや
あらんむくてお敷ふみじにほのう
事とひくふまれとおひがひとす
まゆくとく紙小書行拂りうれ
義うれ何く乃と初の浦拂りうれ和陰
極れ歸とあらまくへざつと四支弓家
ぐるま門く後送もくらうまく御子
乃御家守支とれとあり樂中の其姓

うらあげく

やがて文正を禱り、榜羅衆をもどさんとおもひ
走とれとす。亞かぐわらをもととく。先小引
ゆき今小モホと報ふ。暇と云ひぬは少く
シと山密不往たり。かの今乃不まこと
つよきなりとぞ。又小糸おほれうるそひのそ
うふと志し。すまへ勅宣小からく。古に榜羅
とせく地差が。門乃像と刻と。大約も小
委金せし。かく勅使に条大納も云假に佛
お小胡拂。自承。

本病是れ泥れ。榜羅之をて。余とす。
因て地差が。前小漫矣。もと見と。此
は乃多の地差たどり

三象寺

高院

當ちの大日と。うつ沙門乃と。一石も
ば大日と。トセ。ハ西七氣。東流。御丈
あり。うつ沙門。放事。と。東流。大日。穀
寺。と。それより。西七氣。と。名ふ。そ
や。古。と。其年。が。源流。を。と。が。也。も。御丈
の先生。至賢。と。信。と。友。乃。高弟。と。そ
又。儀。小。氣。清。く。源。乃。流。と。云。お。さ。ある。ひ
き。渓。と。く。由。ひ。を。御。り。漢。は。榜。半。を。

母恩寺

年鶴齋

次上村

主と。れ。の。母。也。と。お。母。堂。南。建
母。恩。寺。年。鶴。齋。次。上。村。主。
は。お。の。京。移。り。一つ。も。り。上。川。あ。
後。白。川。法。皇。内。母。尼。内。あ。お。れ。建。立。主
多。尼。あ。お。り。又。び。而。り。か。あ。の。聖。中。小
ね。元。據。と。云。わ。り。ひ。く。と。本。院。乃。流。主。小
矣。序。以。教。改。づ。村。う。一。鶴。く。云。怪。生。を
前。や。お。小。都。入。淀。川。小。都。一。く。い。今
は。お。の。う。と。例。小。流。れ。と。も。り。く。榜。う。重。
そ。く。段。人。ね。元。據。と。云。傳。り

難波御坊

本中教も。御堂。南。建
少。少。少。町。少。冬。金。ち。研。三。元

山岡山上人初創。も。未。代。少。望。と。弘。遍
宣。俊。乃。直。利。差。ア。に。及。不。姓。民。友。原。大
藏。冠。乃。長。流。室。を。后。之。乃。大。を。有。範。乃
也。子。た。り。志。學。教。學。乃。勤。勞。是。法。方
主。乃。主。源。充。法。流。乃。興。勤。海。渡。互。流
乃。施。行。く。れ。う。も。廣。を。と。參。さん。あ。ざ。く
毛。と。す。い。せ。こ。桜。山。堂。乃。是。業。ハ
毎。山。院。文。承。九。年。就。焉。上。人。乃。山。島。女
是。山。院。尼。山。院。又。上。人。遷。化。乃。後。十。年。上。山

龜山院第五代伏見院空代法友帝より
勅教寺乃宣旨公慕りくまは山釋即
東聖村小ありは附觀山乃造立（是）是
と改むすきを以て之又高列大坂天國
宮乃例小教と氣ふ極く懐小天國と接
處小教く法流日々小うんに附小藏田
信もと城地とやそひ和睦して之余
小櫻（是）庵とゆく京師六系の教と
京師小教くもあく二天國と称せどと
御大老乃私了の教寧上人乃墓今九室
景院乃中宗墓院乃淺大野の松樹
乃ト小さく一足段小天國の上山小教有
寺戸山也も大老乃山墓とより又山
釋乃仰趾東聖村（是）第八世連如上人
乃換墓焉（是）西が狹ちれ教乃少許入
此地小乞と云。維別附志（是）

▲ 雜波記より開山より第八世蓮如丈
全一卷。治應五年（是）御開七月下旬。大坂
石山寺（是）乃名。法堂と建立。其
年三年ノ月。止住。之。松如上人。まぐ
此本寺より之。時乃法堂。至矣。今乃
仍城乃門。又石山乃市坊と。云。

因乃生の力サ。ト。今乃大。口。色
至文祿年中。は陽水院。す。ふ。院町一
丁目。小山堂と。名。す。一。堂。長。乃。席。と
ハ。波。色。乃。市。坊。と。い。り。と。え。善。度。至。を
年。中。に。開。山。し。り。十二。世。真。如。大。僧。ふ。今
乃。上。那。波。乃。地。小。山。堂。と。極。え。建。立
乃。切。り。り。り。ひ。き。と。ね。考。乃。勅。乃。經
う。ゆ。か。無。酒。れ。む。乃。碑。集。て。法
後。乃。あ。高。り。私。恩。れ。深。じ。と。演
西。半。射。る。未。か。く。山。堂

山。開。山。上。人。乃。山。す。山。乃。山。下。小
山。寺。桙。津。村。乃。市。坊。と。ゆ。考。長
七年。山。開。山。し。り。十二。世。真。如。大。僧。ふ。の。
建。立。し。り。山。す。山。乃。山。下。小。寺。也。多。す
十一。世。真。如。上。人。乃。山。す。三。人。も。す。ま。れ

才。一。卷。奇。教。如。上。人。お。が。教。む。祖

才。二。佐。延。於。多。と。人。與。正。ら。祖

才。三。光。照。准。如。上。人。西。半。射。る。祖
娘。た。於。如。上。人。所。年。八。十。歲。中。文。祿
九年。吉。月。女。四。月。小。所。遷。化。あり。之。及
至。七。年。小。所。西。を。引。り。之。れ。也。ま。

津村市坊

佐後町うち半町まで



ううち社あはれにてそりの堂乃誓
昌日くみすりくさんかく西と淨
君と称一ふとれ裏と称す故より
あがれる乃破流無性乃刀酒の酒經
釋也乃二も汝の八度乃の本況
ゆき生く世と乃君注波君を承る若
知誠と生れをえきに極然ありと
されば蓮如と人乃は稱す

あをひて二り次花文てわざひふせの本に參り
御小星御年ぬつて御堂古く地取
いさく院門セドシカトモテえ強の中
又淨業遙景川事きて裏町後地番六十
十間安吉町口十万便と人など笑れ
ち院又持して御堂の瑞海慶寺化す
本光にて於焉法忍れ母と被りてに
享保九年辰三月又坂町中入久川さう
佛堂淨氣院迎禮報樓入門対面所産
一字も不當面源して仰、東川高見毛
終身毛毛是にうりて高居加誠重與れ
去教之參りて又院門ともの方を町
すしと人あと附て寺境を移一佛堂
本與れこ一品若草一束毛一

法體衣冠功伏りて地政石垣高
佛堂内氣堂敷樓付西至外町へ乃
より此半威範して教以法度の
了解すまく本場の老翁法要のふき
陰紅葉入

天國代市農
佛堂初代法事
仰無事と号す

佛堂初代法事

佐町茶跡堂
佐町四丁目並例小町

原と朝と考へてより生れ
原がる院德先茶弘法大師の法體
じつは不正院徳先とくらうと爲め
上本庵、まことに今ふ難院事
件とあめりと考證あることから
ますを心り今町庵乃裏と云ふ今
ふ難院乃告じとく片桑生を分して古
景がるすそれび不にかうりて名前也
は若へても難院乃考證と云ふれど
はあからず考證名也乃ゆくあれど
難院とすをかねのみ在も法縫もそらす

き外景乃海ノ一處乃移む只所

ももアーテー今シホーラカズ

芦乃海

美和葉 三ツハ

三ツハ

美和葉の村

水本

美和葉の村

水本

美和葉の村

水本

美和葉の村

水本

美和葉の村

水本

美和葉の村

び池乃水をうかぎておまへとおまへとお
乃のい傳へ給くらん昔は里不まぬあく
かくらひをかせ一うさりうすもとくまふ
うまうのとまううとまう年入ニとせと務
多うれくやりさんを種るゆくがんにま
まと一といゆくよられぬからり根三年
みめりえれた野う黒も夏まうりげきは
まよひふあくねくとらひゆき
るあひのまうりとくとくかじび池あふ入
てむかへるりうなみへあれりて波
とおととどとちの身一ほ男をひまうり
あぐるをとめられはと修一裏もくす
そこうととめられはと修一裏もくす
わうりくよ生るけりとまくわ
れまくふりあわせひとあせひと
まびまくふふみれが件の二ふ

タモリヒラリーキムヒサクヒキ
アセミトハジイソウタツガアーモウと
アケタウハシトトロ今ハムシホアキと
て一毛らふだひ切つや、又池小入し
トケガリタるとくさうたとめ今ハ世と
もキハ高と書まばととひて木下と
いとめこりひき憤ふん身をやうが今
ととくろあくひまくとて表あくとくと

阿弥陀池

モ羅尼橋とくまう前
がうりぬあかる高あの裏よりわくと
あまし化トソテ那波村松の因ふて無事小
あらし小え縁石年代は新地町かま壁で
小塔にあ寄ひ分れわき流の屋に尼門
と子自の石小井は財和光寺の寺
を達て信濃至若光寺は末寺いは出
ヨハ首百枚を被ぬ玉スロ) 駿助(始て
権助の像残波を難波れ御よここまう
ちくよ段内天官死後に許後(あく
守尼天官神事に灵神と列する山県也
とて難波の落によすを名甚慶松深雪
併人中田若主は深波事にび伝説といざ
き一寺城遠立して今其若光も盡

なりを仰ぐも、せうみ池めうとて
あそびう純とひじらりくはーには
若見えすれらんざに見くたりそくか
友くらむと又松のわら難波と矢和木不そと
ひがりへ和木教かく時寄れふる賀れ
も古紀世乃るさうるゆば國雅集よ
川如來乃浦奇そくへ祭り

宿車、秋をやきまく入井音と前と走まがひ
織糸もひきすとよ詠おほきを染み難波

千月山乃あ

入坂山角裏水町ふる

はあい酒と櫻正月に櫻うちとく大坂酒
店多く此一あどく用ゆく事多ゆ奇

秋田屋山乃あ

名坂經川乃葉屋山よ

井あやり子月の傍かくも性と
回くこと

天井山あ

天阪山と井あく

右四ケ乃あひ筒生と名井みくら

方木費聲と源木和く美味を

判友松

大和田村小石入坂より

乾乃方一里半そりよろ

山口里

には長乃圓徳山村小石

大坂山あ

大和田村判友松村乃益

川山

小中橋大谷大坂山の山

當德

山口山の山

岩乃上に今乃伊萬と達三一ノ山
とやく河野とも山廬の傍りやまたその
大奥風波とおり松木と木立へた
かうはふ小山でもち一やち候ゆくへ
て雲煙と云ふ

四義島

は島ひふまち乃がくつね

と歌歌ひて方角抄書天より、りりや
島乃方、り乃海もく海度、りあがと
あり又名不算より西本院と云ひて流
りゆきあすおはくもあれた不の入
かれれば木橋乃やり及のり或ハ
細村もと云達ひとほ人歌所、房
連作 あふあくくこめくこあ
所ちてねれやきの難波路とあ、鷺の森が表

福島

上福島下福島三ノ島

今ノ安藤乃新地、もと川とや金
下り川通りて所へ行こ處を度す。ま
まほそくちへおへそくめとてそこへ高
木林内川多岐のほそこへへ玉藻
とあうらぶあへそくめとてそこへ高
ありらのきたいがの骨子とぬきゆに
飯とあくかく背とねぐねま
いれいかとまとあくとる板とあ銀
とあこもくねへお色とらありとあと雪
けのとものとあくとくはまのとあり
えあとああとあ

下卷川

玄崎野原から福島へ流

ろ川べきの無事かく行て那田の路
の橋船とく、くらへ乃おおせ

節 四

福島さんかふき

山不の夜落花かりかく吉野の楊
聖木未だ高尾のわ承るかくまか一
の底不かくせく高奇くふくつ失
本入り古へも候機闇起くまくも候
其消あめあどすくやくもえれたゆ
つりをとひなむり來へ本く花らば
しれりも今の人間の身くもあく
あたあらん相をてとくとあく
候からくらむりかく與もくもと
きりみゆりく、おみゆりの花乃と
りに小棠と青のとくとくとあく
とくし萬心佛乃所傳化を奉安
奉一宇乃ミミテ御みゆき也哉くま
とくの念仏形志の外のいきい片
室一宇乃ミミテ御みゆき也哉くま
難波名ふ化ふ四葉堂

鈴田川

ゆりく望里門と云ふ事ぢねとあり
されば浦内とさううも前乃中ふ藤
村解去りて大正元年一月とぞて乃
文少因あり口わりいわく、お農乃うち
あくとあじとれの解ふ事、お農あり
えり、方へ成ふゆく、藤村のゆびとある
人合城へ果たるをか堀乃にて取
うちわたりとの待ちり

信法

山河の首歎ぬ天皇乃山
時万葉豆子の載物へよきく松像燈
を置やし、御器岸乃おもひかくお
舟泊ととあり又紀伊五島日高村

先に於上空見後上へ不極端あが
一 治法院セ建ニシテ一官教示と仰
奉りどもや是もし公法付奉ら因縁以
故也

波
瀬
山
川

瀬山川を御篠原川と云ふ
又鷺見山と称す貞享元年八月二日
陽見山と云へ此山より後川より一
川口にさりて一山に接して有茶主
ノ内御篠石垣と呼號する事と申
主あり者乃く漁業の道と防
く切ざりと御野と根の枝くかと云
不ふ葉けり仰くは波山川と申す又鷺見
山と云

御
篠
原
川

帝小治条時ト夫大帝易

小治くいが不寛永年中に都辭事
主と云へ界多内掛下竹林を穿
作院きくま太二竹林ちげ下にあ
くあるす篠原え森乃下に之云
と史一人ひりて後川下と川は
乃とそとくく塗あくつり防
内様と篠原川乃西より引川と塗
くもあせとせり見もり河辺の西
院城西ノ町家を渋河洋修れ碧
玉山城下高井と清流の源と水と
人出切然とす時御篠原乃志江と云
ゆく川とゆう名を今ハ御篠原と
さ岩山と巣く生名と鷺見山と云
ひ篠乃名を及本とあ

國とて之と一無伴天皇の内間に
新羅國よりさる國をこれと云
かくのれと告給に在りほじきに及
ま乃等アラウークルアルの事と云長
とくそれよりはぶか未り経りミタレ
軍小河名乃度人賀能乃松本と
女乃もりにりまこととめ
姓名を度て流さん遊宿のわねがくふをなす
を育ひたぬ所ノホトムカシモトモスノ
足運セ父故あし御篠原の御篠原乃日改其事
始祖の小ね院は朱里寺の玄平と大年創ヒテ始祖

難波橋

上ノ難波橋と云ふ

水深のぬ高の橋に似て水の前より高
い浦の所に立つてあるがのちの難波の經
人のよきあらそれは難波津ふはや
山根とよき夜高木入法ハ大坂の内
ありあらずを名れ高今尼の橋乃木
下すとあん役人高知といひそつの
人を殺す

茅の橋

茅の橋も一舟の舟か
太ふ太なるのたあめりとにまの車のどと
あらぬ橋へ在へるゝかに、一と渡り浦後
まくすとちられ渡りかゝて多後て年を守り
せ中でやうわにほよのまくの鶴と枝方こりあ
秦はあちの舟もとし今御船竹子とんと

前ともあまことすとまく

立角橋小難波のやい橋い即とちく

大口橋

方角橋ふと見是難波のさ

院急橋 天をさけむ一と渡りてあし今い橋橋半

あく立角のすと見是の熊堂内一のゆよ
ひ由産へ立角のすと見はいはゆよ
内あいあいはし又川橋と云ふち一門虎

大口の岸ゆき本草てうとは難めりのよ

れの町へりうりて中野より数ヶ乃新橋を
御はすよりひ田養橋大口橋渡急橋

がくまもとおきの舟と船のあとて此で而て
名付くりいと

茅篠橋

ハ佑 中業

はゆの難波の風の一橋ねどとあらわとやす
てのぞくはらへの集ちにせらと名す

川字小路とくにゆいゆり

茅篠橋の接頭するてみたま、裏取の事

塙江

仁徳天皇十一年の冬十月
小山多と引く而ゆふへと本と塙江を
号したて日本紀本紀より今の木

津村と云ふ万葉集 はと

大口岸

寺やうりす前まくかと今乃難波
あらゆゆはあらゆれどとめにせが
あしてそひとゑとゑ乃はせへとちゆ
管の舟の重油と鐵をもりの多の間

かあすす人船を許、立田之ふかり
は大に乃舟城とよもすはのわれと
一代不一卒、修船休むと人び殿のふ
そきへあるじ船くさりとしれ。今
乃船活あそ山事とさり船中としる
無えの無陽升の船かとれ船中と
てを船川へ号せり海西候御聖とま
内無えか又は聖聖の無信みとしかば
門とく辰をさり船川へとりは不秆名
もと例の准で久遠さんと往く久
安がかれりて、久遠さんと人まれ
風きお太いの鹿やうつと云ひてよりは船者
御幣八船

船作淀

乃内至り。

小松濱 芦弓 桂木

浦 ちやくとを渡り 朝物置 置賀東入

大作のさきは淀のむと花當船と城一見も

秋豊と淀

浦の四の秋の、候

あれ見 利き見

三浦乃浜

日浦 難波浦

櫻乃三

渡毛 櫻の三浦と云ふ

或の櫻乃三

浦ともいきり 常 鴨玉も

乃本

弓毛 五拍子と云ふ

芦 簿

さう大波りとく人 利

玄狗

ひら泥カリミとく 荒月

あら小船

雨あら小船 清 浦

難波

難波がりに三浦せり

或の難波

ともいきり 常 鴨玉も

三浦

利乃波と云ふ

三浦

利乃波と云ふ

三浦

利乃波と云ふ

三浦

利乃波と云ふ

三浦

利乃波と云ふ

三浦

利乃波と云ふ

三津

羅波浪

あわ浦のぶみ出す浜日の
浦 美浜 東やおみ 沖

きくみん

駒の里

浦 美浜 東やおみ 沖

駒乃松原

木曾のうちの松原へ至る
漢をもれまし 滌 潤 菊油 滌江ともあれま
と門乃瀬

高瀬

五瀬乃門の瀬とつづり

高瀬

高瀬の浦へ出でり

三津

浦の浦へあゆむ
高瀬の浦へ出でり

駒の里

高瀬の浦へあゆむ
駒の里へ出でり

羅波浪

浦の浦へあゆむ
浦の浦へ出でり

大瀬の浦

大瀬の浦へ出でり

加瀬

浦へ出でり

糸瀬乃海

糸瀬の浦へ出でり

奥村大内作

奥田院村より一里か

平野大内作

右へすり北へ一里宣小込

天王宮牛頭天王

額 仁宗及正季

佐丹町立 神像 金剛院

吉伎大内文

川越教尼高麗七丁の
子り綿樂も村小なり吉伎この美も

鶴陽小見八所乃因ふと家より是云
天皇大龜二年小成六月より下乃の

夫倅と重く二十三案安信仲九十六
案二へちに学文乃ひに遣使使かね
て入唐一聖武帝乃ひ天平七年小

被船と左唐廿一年すり称達奉り天
平神儀二年小石大内とすばべ難

縦ちに登廟あく大臣小姓うえ仁
喜内裏在二年三月小石大臣高倅二

朱仕と同六年十月吉波之薨と卒八年
二案とく山川水急りと記承考

后宮

と称毛尾端小之

蓬萊山海平らぬえ

寒山異陽寺

入後ノリ四甲北伊丹三甲北三所西

雪成天皇天平八年

小建祠列。三部武庫山から開基
乃基三座。小建祠列四十石の元

御墓ハ賀根。主乃枝種姓のもの。寒

泉列。大名。天智天皇七年小生
十八年。生。御神小祀。とく

く五備セリ。名祀。と御或ハ破難。和
舊ト行乃承。と御御御御御御御御御

御御御御御御御御御御御御御御御御
御御御御御御御御御御御御御御御御

鷹尾山多田院

川越別當条良西大寺

當院ハ橘守源謙仲又乃廟僧也
本朝平四年多融帝天孫立年小建

源實、信教。了て住主。じ。三男
成仲。成房。和三房。高祖。又里乃玄房。

清和天皇。平龍觀王。六孫玉經臺。多田謙仲
延喜十二年。二月。小建主。八年。大

四の附。橘守。橘守。橘守。源謙仲。統領
家業。貞。延。二年。小建六年。到醫

德樟國。号。又。延。元。一。院。老。塗。三
年。小。半。六。朱。少。平。年。已。到。一。院。老。塗。

佑。馬。と。付。云。吾。御。院。山。御。院。山。御。院。
山。院。小。院。廟。山。院。山。院。山。院。山。院。山。院。

神。御。院。山。院。山。院。山。院。山。院。山。院。山。院。

云。平。く。安。休。う。く。逝。去。と。命。い
往。く。高。山。山。院。山。院。山。院。山。院。山。院。

至。藝。諸。道。か。か。と。今。小。死。り。靈。燭。
内。く。こ。神。あり。小。故。小。ゆ。あ。ん。ど。と
お。れ。は。廟。富。而。知。く。教。聖。小。穿。

へ。而。と。天。下。八。安。危。と。三。め。と。の。邊。

主役秉性是善事の院小智アテ乃に
中興ニ古代後古五下辛文昭四年
八月十七日吉原御在院と初候ニ
て榜題一位と院廟小楊久美入院か空
うとうんじく寛文五年秋にノ船軍
主可い食レトモアリ再興主ノ
天門松圓在處寺號小院セレム
又漢神乃前ありモ主復ハ甲子
トシ一務る小赤これ元日奉の記
造り而色と本殿小堂主す又教主
形像於義多衆等行祖紙よりて
可代寺復拉現宮と考すれどり
本記ふれりとさんニ氣清仰古城翁
津光寺

津光寺

寺列河通院

捕陀山津光寺と号ヒト本名御津

權金三才八分乃龍世音真證

本約又十三主淳和帝天長年中ノ弘法
大師開基乃本之大師より清积乃德
滿と云々大師乃釋迦之弟り海濱小極
て般光大師乃金像と號く人称號
小窟にて生れりくれ少佐ノ子也
勸善勸惡海波及數十本房中
雖夷々有門一而外天去耳中小弘法不
停の地小極滿のひも窓乃是ノウ
とがんと捨金と擇く金像と安坐
記化く捕陀山津光寺と号ヒ
破のくと無と主役秉性は富
権と號り伏度とづく。院を松圓と対
し、院を松圓と對し、院を松圓と對
御乃以住持於後院と余下トク天僧と
造しめは金像とも圓小堂の事と御
造天正七年ある門とくく極大
事とがんと居小窟と擇く金像と安坐
て將造れ切付ト御本堂を封換
乃裏小あひは北田織と傳法凜小りく
來し幕房成器、これと再一ノ年
月かきあり風雨あはれ小おノ被れて
授つら度多の所方とあう。九月ノもの
法へと里人えと稱く津光寺
おつしに去ゆる延喜年小姓海法下

風船にまつはれ不ふありつゝく終る
る船とてハ^{サウ}益^{シテ}海のゆく島もすこす
一^{タメ}歌^{タメ}三^{タメ}小^{タメ}大^{タメ}西^{タメ}東^{タメ}享^{タメ}三年西
宣乃^{タメ}性^{シテ}海^{タメ}夏^{タメ}小^{タメ}西^{タメ}東^{タメ}三^{タメ}所^{タメ}の報^{タメ}
と報^{タメ}礼^{シテ}み役^{タメ}金^{タメ}光^{タメ}と^{タメ}あり^{タメ}か
と見^{タメ}く夏^{タメ}性^{シテ}海^{タメ}と^{タメ}と^{タメ}を^{タメ}引^{タメ}く
引^{タメ}く夏^{タメ}性^{シテ}海^{タメ}と^{タメ}と^{タメ}を^{タメ}引^{タメ}く
中^{タメ}ふ一^{タメ}乃^{タメ}役^{タメ}士^{タメ}あり^{タメ}て^{タメ}引^{タメ}く役^{タメ}士^{タメ}と^{タメ}立
飛^{タメ}中^{タメ}小^{タメ}三^{タメ}二^{タメ}三^{タメ}所^{タメ}の報^{タメ}和^{タメ}と^{タメ}あ
村^{タメ}民^{タメ}役^{タメ}乃^{タメ}男^{タメ}女^{タメ}と^{タメ}役^{タメ}セ^{タメ}り^{タメ}かん^{タメ}全
く^{タメ}牌^{タメ}光^{タメ}紙^{タメ}幕^{タメ}ひ^{タメ}う^{タメ}て^{タメ}義^{タメ}松^{タメ}
かく^{タメ}ん^{タメ}と^{タメ}かじ^{タメ}く^{タメ}火^{タメ}火^{タメ}と^{タメ}の
末^{タメ}史^{タメ}と^{タメ}志^{タメ}と^{タメ}く^{タメ}小^{タメ}溪^{タメ}村^{タメ}小^{タメ}役^{タメ}士^{タメ}正
和^{タメ}と^{タメ}お^{タメ}め^{タメ}く^{タメ}信^{タメ}り^{タメ}く^{タメ}役^{タメ}士^{タメ}正
山^{タメ}院^{タメ}かく^{タメ}り^{タメ}く^{タメ}女^{タメ}大^{タメ}金^{タメ}而^{タメ}造
乃^{タメ}大^{タメ}也^{タメ}乃^{タメ}像^{タメ}小^{タメ}祿^{タメ}記^{タメ}一^{タメ}本^{タメ}と^{タメ}かく^{タメ}今
毛^{タメ}と^{タメ}お^{タメ}め^{タメ}き^{タメ}と^{タメ}かく^{タメ}補^{タメ}院^{タメ}山^{タメ}
序^{タメ}え^{タメ}ち^{タメ}れ^{タメ}記^{タメ}かく^{タメ}性^{シテ}海^{タメ}と^{タメ}大^{タメ}小^{タメ}う^{タメ}び
山^{タメ}院^{タメ}かく^{タメ}り^{タメ}く^{タメ}女^{タメ}大^{タメ}金^{タメ}而^{タメ}造
乃^{タメ}大^{タメ}也^{タメ}乃^{タメ}像^{タメ}と^{タメ}し^{タメ}人^{タメ}ま^{タメ}ね^{タメ}む^{タメ}かく^{タメ}山
院^{タメ}かく^{タメ}院^{タメ}乃^{タメ}役^{タメ}正^{タメ}信^{タメ}り^{タメ}く^{タメ}役^{タメ}士^{タメ}代^{タメ}役^{タメ}

大^{タメ}翁^{タメ}奇^{タメ}房列^{タメ}た^{タメ}房^{タメ}小^{タメ}

月峯山大^{タメ}是^{タメ}ち^{タメ}、早^{タメ}と^{タメ}早^{タメ}也^{タメ}代^{タメ}推^{タメ}
天皇八年小^{タメ}達^{タメ}延^{タメ}波^{タメ}、在^{タメ}子^{タメ}日^{タメ}是^{タメ}と^{タメ}招^{タメ}
使^{タメ}勢^{タメ}乃^{タメ}勝^{タメ}峯^{タメ}不^{タメ}り^{タメ}山^{タメ}乃^{タメ}勝^{タメ}波^{タメ}、在^{タメ}有^{タメ}
金^{タメ}乞^{タメ}の處^{タメ}を^{タメ}二^{タメ}か^{タメ}三^{タメ}か^{タメ}四^{タメ}五^{タメ}六^{タメ}七^{タメ}八^{タメ}九^{タメ}十^{タメ}
目^{タメ}是^{タメ}あら^{タメ}木^{タメ}と^{タメ}城^{タメ}と^{タメ}木^{タメ}と^{タメ}櫓^{タメ}と^{タメ}櫓^{タメ}
他^{タメ}糧^{タメ}食^{タメ}と^{タメ}、一^{タメ}林^{タメ}と^{タメ}木^{タメ}と^{タメ}、一^{タメ}林^{タメ}と^{タメ}木^{タメ}と^{タメ}、
れ^{タメ}と^{タメ}月^{タメ}峯^{タメ}も^{タメ}、是^{タメ}又^{タメ}一^{タメ}神^{タメ}と^{タメ}御^{タメ}神^{タメ}、
一^{タメ}と^{タメ}達^{タメ}く^{タメ}と^{タメ}、と^{タメ}奉^{タメ}と^{タメ}取^{タメ}ふ^{タメ}、
真^{タメ}ハ^{タメ}往^{タメ}、廟^{タメ}七^{タメ}堂^{タメ}御^{タメ}、是^{タメ}より後^{タメ}明^{タメ}
廟^{タメ}廢^{タメ}、今^{タメ}も^{タメ}い^{タメ}望^{タメ}萬^{タメ}觀^{タメ}、御^{タメ}神^{タメ}、
大^{タメ}門^{タメ}傍^{タメ}金^{タメ}等^{タメ}、有^{タメ}又^{タメ}天^{タメ}大^{タメ}布^{タメ}林^{タメ}
大^{タメ}山^{タメ}神^{タメ}、社^{タメ}、村^{タメ}、民^{タメ}、則^{タメ}、奉^{タメ}、
守^{タメ}、お^{タメ}ま^{タメ}、事^{タメ}、ど^{タメ}り、ナ^{タメ}わ^{タメ}、す^{タメ}
ち^{タメ}南^{タメ}招^{タメ}、北^{タメ}居^{タメ}

蘭^{タメ}奇^{タメ}房列^{タメ}た^{タメ}房^{タメ}小^{タメ}蓬^{タメ}茅^{タメ}山^{タメ}落^{タメ}、ち^{タメ}、等^{タメ}す^{タメ}、か^{タメ}の^{タメ}年^{タメ}三^{タメ}三^{タメ}

及天皇寶平六年水道新於國連幣
佐助銀金の寄附申るハ如春八三博之
佛二寺新法服之化かり會平八年正月
四日坐生辰と大抵と同西門子御子入二國下
食色多りニ傷あり吉乃とニシテ御母
常ふはすふあそハ松波五之鏡うそ子思
まことの義と安堵小立ベニシテ還玉祥臣
と御邦一ヶ年三倍の三月の山川蓮
萬乃三齋と併シにて松波加墨
と興部一ヶ年寛平六年の四月主く
詔と申す六月三太極之祖也其ノ輪城
販賣小納の多甚多殿門様うそ堂の多
偽り極に大極堂、承元八年三月廿八日
修善儀三量行信ふと寄附申る由、ち
無心房萬有上へはらに經一月時日空色
二年十二月廿二日卒小経一个、
少子也と後生、久國主八重丸又五
大日寺四三十七所姓生源洋乃先生計り
後院もそ此一ヶ年後矣承永二年小深
牛乃冠少少りくくまく以能とかれり
と大招軍添川家鉢多儀乃異速と申
トロヒ上不參之丸と申シ又言



再興へり是より松日あくと
又魚雷さんこニ莫ニ義介とありて
然らずすニ此種のじみれにて世人
これと稱ぐる嘉計ひらやんり清義
これと稱ぐる嘉計ひらやんり清義

人至三十二代用昌天皇二年聖體を子

品下割するハ今子是世合御承ふ生れ

タヒト内船ノセリハ十一面觀音波來

一多るかものなり左右乃ニ高川運河

橋をまの造ニ茶丸を三輪と安坐す

也孔昔ニ番ノれおより御奉御

時よりより後御傳ふ内惠膳惠使

乃ニ候と巡く不候せしめ立ちあるに

天心の旨は矣かりありゆる殿嘗舊

令とくく成旅となり始乃堵と山中

とくう後再興して今の堵ふ門す

えやふ何をとあるからさる城ある

事あつて御内侍とぞり

惠日菴與本堂

人至四十代智武天皇祚永年中建

開基勝道法師

智龍院正建

移深守源勝仲云ばとも破修

元とくく告げし所

天安小善堂

とくり性ハ若田氏下野玉井方賀船の名

はち代役ハをふ少ゆり日光山ふの少りく

精すと達六十一代朱雀院義平年中

移深守源勝仲云ばとも破修

元とくく告げし所

天安小善堂

乃事教がめあは年泰時三室の更

替とく八条為後が引の文へあらざ

松或經善源勝含雲治定主て豐成

かくべらえ伊豆國ふくほ院船高の市

内庭主法新三院奏主にいのく、
院統融氏ナシカ木廢せられてこく

櫻族とかくとく奥乃一院のミシリ

ケヌキ又安年中小ち便船革れ擅つ

とくそと渡ま興せしめあらぢれ良

爆泉を立ぬてこ處づく者うたぬ音

入船入内迦がの音を能ふあるの

豆村小あり。至光山舊附の事等す。舊和天皇の玄孫畠山漫仲の子義顯。法師の開基であるといひ詳く別説。乃他に護照信名と云ふ。从良所へより離れた病小門へ生處。一精舍を有す。移を若狭守多門。又般入京後と曰。地中雪の事ねと種々詰じ。今小至中堂水野墓接地の阿波佐松と事。御靈陽の主日祐殿此地靈堂を舊と云。靈に人物靈くあれりと段高門。菴庭。かう翁六十代一院院長。本中少翁。再興と又云ひて。少翁て天翁も。天翁忘西院。いもひ。性ましく。をも。第一席。存時中興祖。て天翁も。流下と。かり今。興波。水永澤。也。此東院六代。院内景福。も。小属と。通寺人。神寔。小。也。わ。れ。ば。か。入。 康保四年。乃。冬。坂仲公能勢。山小入。て極痛。かく。承。乃。夏。小。矣。文機。小。奉。り。あ。く。云。氣。これ。於。也。川下。乃。源。小。入。也。わ。れ。れ。し。章。す。す。年。あり。今。草。小。對。解。小。あり。形。つ。 くれ。袖。と。道。宿。一。終。る。ど。そ。、利。り。 究。る。一。頃。と。引。く。縁。す。う。漫。ま。り。 え。れ。が。於。焉。か。ら。う。し。く。ほ。の。漫。附。 え。小。善。び。え。你。く。も。被。と。入。 附。 海。内。と。さ。け。り。あ。り。漫。神。遊。え。ん。う。 え。孫。漫。信。ふ。け。る。と。経。り。く。え。き。故。 お。す。朴。の。こ。一。高。君。こ。は。坂。仲。の。加。 信。奈。宗。仲。走。そ。れ。る。首。に。游。て。山。端。ふ。 望。え。ま。と。小。さ。く。と。立。れ。と。弱。薄。一。峯。 す。 よ。り。老。死。く。から。く。善。財。め。あ。り。こ。も。つ。 附。 基。小。基。ひ。く。わ。く。善。門。忌。と。無。一。 乞。ハ。械。ふ。農。勤。事。電。 あ。る。首。出。現。せ。り。玉。朱。入。小。善。ひ。と。 仰。か。お。一。ゆ。く。金。堂。小。納。め。教。三。奉。 と。合。併。て。え。か。り。こ。冥。慈。奇。遇。の。り。 最。上。ち。 西。敵。聖。村。小。あり。 石。院。一。 石。院。の。世。故。誓。主。外。

深岩山蓮池も。三四よりニ重かに
搬入村ふあり。

小窓池

是陽池。一星廢寺。二八月東行基。三舊水有
石田内扇。一西之夕の尾乃か。二三ノリ

桂社あ。景。あや先。名。曉。暗。暗。
や。三三ノリ。二二ノリ。三三。まわ。みか
みか坐。坐。兼合せり。信於長安。

皆毛歌

皆毛歌。一毛歌。二毛歌。三毛歌。四毛歌。

川野酒

川野酒。一池野酒。二野酒。三毛酒。四毛酒。

山野

山野。一毛野。二毛野。三毛野。四毛野。

川野

川野。一毛野。二毛野。三毛野。四毛野。

川野

川野。一毛野。二毛野。三毛野。四毛野。

桂

桂。一桂。二桂。三桂。四桂。

皆毛歌

皆毛歌。一毛歌。二毛歌。三毛歌。四毛歌。

皆毛歌

皆毛歌。一毛歌。二毛歌。三毛歌。四毛歌。

桂

桂。一桂。二桂。三桂。四桂。

皆毛歌

皆毛歌。一毛歌。二毛歌。三毛歌。四毛歌。

難波人 あゝ久くや ともも船大 為母

夜坐き 沖ノ泊母 三とほり 難波集

そり主ゆを也あめびとす 魚河浦

津 滋 伸 ヨ おも 鹿門 段 墓

官 一 桜 伊豆の島 溪岸酒 之介

海の難波はのきりあるての木を成れんかわらまき
よもがるるの難波のがいも然がるかのうか よも

萬の御はまくすとお衣とおみのむかひのうら まく

悉れに今も一回もひまくことうむむをまくえの まく

もあくふをもはのあら難波たれをきと 舟用

難波浦 亂波浦 日暮をもひふ

今だうつ腸 云あら

難波入江 広下橋筋 こづり

れ續古今難中 前元末振基報

難波の入江のきの間までおのづく浦門をさく

極江 おほくも高く五城船の

浦波急難波 と称すの名前のみ一古

今の名極の船の船とあらむりともあまうて

玉ねうどるる浦へり人ひくかとも或

ひをまつてむかひ小舟船とひうそうつに

ひふ船と終ふるかと易るてひよぬわだ

古今 也景也太臣

難波津側卸小舟引ゆう日 ふらひを波うさ

渡假捨 定家

桙島や難波城は小石玉乃東乃東ハ重きうる
桙國揚

とおとくの拂と拂り川有音

又はこむらく若ひ一ふりて拂りふ外と田

ろ拂の向ひもとくふわまく拂り入分に田

の活小拂す毛もくたづきり

桙田乃江 ひくの拂おみます

形居てせらすおうおうの桙見波深とふあり仲丈

浦乃船鴻 大便吉えの客不の難す

もととくの拂の拂あらむ

鷦鷯 あわ 紅葉 蝶々網

りや波 奥の船人 あら紅葉とさくみ

かじりうの難くつむり

百瀬野 くさ向西々 あらむ

花百合 紫雲 みる

白海川 まつし野 まつ

春物の詩 まつ

おうどく淡

志野の因幡を す

時も 田舎

いのわきへ

旅ミ

後へましに

人ち騒つて國へはのゆのよ聞とみて神さ持母
ゑ僕の悪ひもかくさんと御も國へはのゆ

小蟻宮

庚古今 大日門復

よがのえあがたもかんたんほのめのゆ

小豆川 錦田

吉 ひとの花

大島をちがう川のゆもひきよかん様じるに無
錦田山

よひてせ

大根のゆ

海にさよる山並み秋月

わざく 海

五度山より

車馬山

六度山より

小豆ヶ岳

九處、東夷山とさうす

大根壁

方角山と西石尾房

大根壁水篠 いがる村乃小守り伴舟

天波

天波より一里ばかり

大船山

倭人山

久々和村 坂船村山本建武ノ浜
赤松ノ方意日く猿陳羽御付和
乃流守り 小浪里

波豆村のゆふもり

浦津演

或ハ浦添前より難波

浦の越后ふくをとキーラホミテ
かくに西成船の名所小守、妻地と亮
伴舟町乃もみわり

上勝塚

一名領城塚と云作さだ

村のゆりどり高尾寄、り一里程勢
方たり前川河渡川より進ふ小瀬
西海小出大舟門小く也居まつる
源定上入月橋の源定小舟にて櫛坂
より天王寺の別當大納言津原小舟
尉西迄、舟中や、志のこく往て櫛
経小瀬お溝より櫛坂すよ西堺在安
天舟のり棹す、あく、此法を定め
天波小口せば運するより入引奈良
天波小口へ舟底水深三尺、より一入
奈良こえへ舟底水深三尺、より一入

古懐と引いて引舟修業一十九ノ月

古懐と引

尼寺山名下十宗主の
方からり七松村の系ふあり是古へ

志序葉椿久人道ふられて後たゞて
是に修業志内林も七月よりゆるみ内

文たりぬ月三十日乃古懐今聖勢船

小あり生能村

高良山一里湯山至

大物浦

古ヘ毛國海邊乃高良門之
古島乃古孫ニシテ義理并小諸樂

乃高良一様又達武乃古秦民文ト云
大別の鳥士ニシテえ乃地與所を被

事無ニ近乃細ヘトヨリ時少而多く
被難小考

敵乃村

久里夜より十八時辰已
乃方和西の村乃ちにあり是川島

セ多ツハラム船小同居ノ曝あり
然ニ前生ニ奇ノ名所ふわくを

佐丹町

佐丹川高良富田港上え
山武ナホミカヒチヘリ磐留丸地脚く

富留丸、洞店多云化玉小接解有
故小侵襲も乃トヨミの門なり有

タクルがは古舊此等を異地ナリは所の
俗例乎く每奉七日乃三日セ日の五
日先官火事あはり、祝日、祭日、月日、年
之興行と社祝節と、燒野やのをわぐる
あり躍おどりて至るゝ處、とく故
日之うちり應應善めりまく、至るゝ出
入乃孫人小砂々おゆく飽きまく、それとミ
チジク萬小走らんとて、乃其高見か
らく、勝負ハタマツ、と興行かりて、云間り

問船古今城下

古城危濟

城主松平左江守殿

山下古勝

尾々萬乃山延山城ナリ

古城主勝

物齋序こう、至是也

古田古勝

右因方小正古城主同へ

佐丹古勝

佐山城ナリ尾輪ナリ是室家

△ 武庫船社佛閣名所

鹿田社

一 指列武庫船宮御裏田

村小之

大坡三里

一 舟子

一座 広田 金所

一 鳥屋

一 武庫船

一 大坡三里

又立文廟乃迄焉所

一殿位古

二殿度因

三殿八幡

四殿南宮大山神五殿八祖神

高皇產靈尊

神功皇后征野羅

御平櫛社

不可近皇后當辰申心度因國所

皆於天照大神海之遙舊石水門西下

於是天照大神云氣之氣也

廣田者天照大神之氣也可謂神主

佛同神元三社位古

追記云、八皇百一代後小松院僧進廿三年
應永十三年四月四日甲子神祇御例三條
忠王依招日神事九月九日後合廣田社
祭、有不善神主神祇御例、御御事御
如社宮中、有奉書廣田社主神御事御
皇后也、御御事御事御事御事御事御事
有如上祭事御事御事御事御事御事御事御事
不全目、奉書紀考、三首

冲位 奥朝元年正月廿七日位三條

神八無、庚御神祇御三條 神階記

貞觀十二年十月六日庚一位 神祇御記

當社ノ御事御事御事御事御事御事御事御事

名主御事御事御事御事御事御事御事御事

右相殿二座ノ御事御事御事御事御事御事

△攝社ノ御事御事御事御事御事御事

星田社ノ御事御事御事御事御事御事

神祇御事御事御事御事御事御事御事

之於天、御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事

△上、御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事

陰神ノ御事御事御事御事御事御事

先發御事御事御事御事御事御事

既達陰陽之理所

今生ノ御事御事御事御事御事御事

右相殿二座ノ御事御事御事御事御事御事

△攝社ノ御事御事御事御事御事御事

星田社ノ御事御事御事御事御事御事

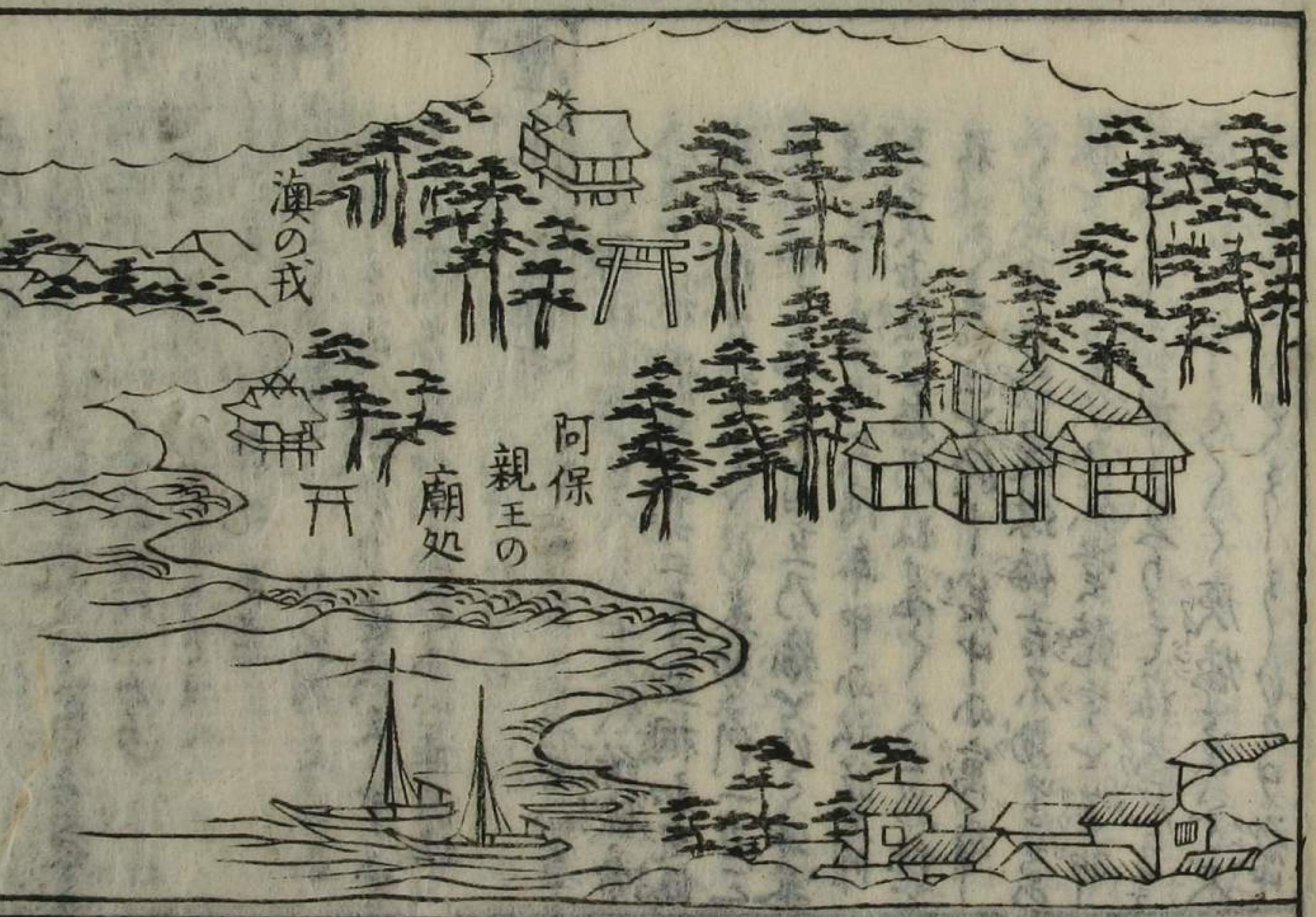
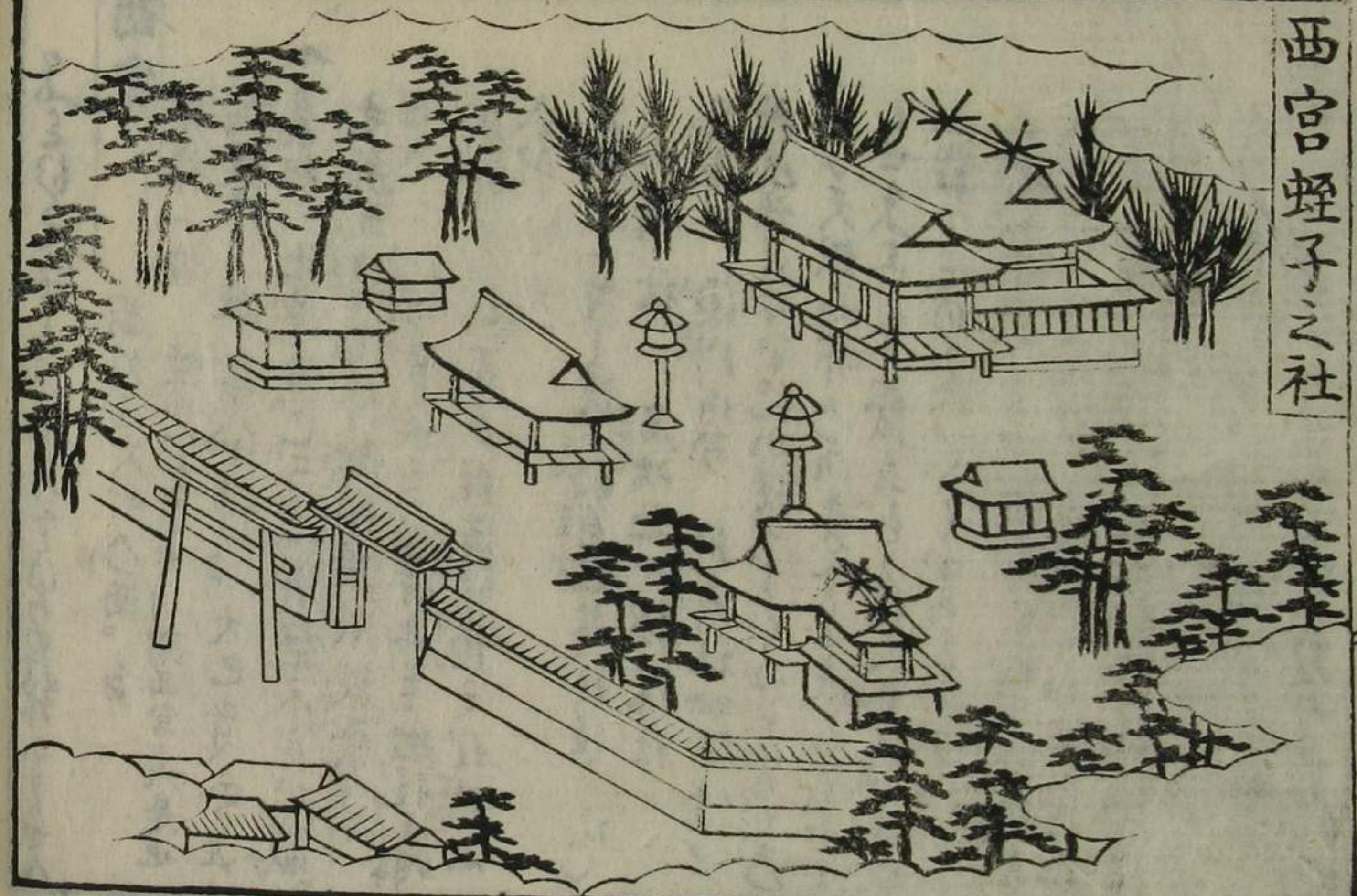
神祇御事御事御事御事御事御事

以子天照大神乃御事御事御事御事御事

也、御事御事御事御事御事御事御事御事御事御事

御事御事御事御事御事御事

西宮蛭子之社



又源一あく一乃をよ

足利海小島今もれ松のまなすと山鳥の家

琴浦の作

あ新田村ふわり

奈井融太郎乃更なりとさく

かく乃文

作記未考

阿保就三山の扇面

お出羽らしかみ

多井毛山の鷹をり達武年中小

島山を波ち湯山の山越小出陣の毛

摩尼山大龕寺

高寺耶

西から

まこと再山と勢と人主軍八代
乃ひす作落景雲二年亞相和紅
麻呂樹安小由と竹基が内一刀ニ
礼乃如玄勝親角左乃像とゆく罪基
達立一坐り大同年中弘法大師
勢願在法極翁乃は本く丈丈乃像と
形と高法と經一岩中小寓居
く弘法跡勸曼殊悔吉不動多是の
像と御之葉びふ供養梵字とせざか
て大入小福湖一坐りえは大尼之
實すが像とくく厥拂と承と大
士乃二尊が坐す

乃喜タリ一ありと、美堂と云ふ
乃喜小様一じ親良二年小刺史赤松
範祐志和と与く壹亨と結婚一再
四郎一田室と赤脚一稚族大比若
母と入る一中興乃祖ニ子善竹比血
永和乃去後高丽院乃は小治例
と行りより高麗院乃は小治例
微小高世小德もうり一高麗院のうち那
域孤國とかりも院まで被掠一田
墨をあれぐん後とく門不承也か竟み
中少ある故抵抗ものまえ謀公私而一
四復乃はうとうとくに不幸か
一くりも院不承也上人と立ちう
えと述く先志とされど歎嘆と
瞻礼のれ情をうて不絶

緑濟寺

移列あ良のあみみき

巨故矣山海落とし号すが船百一代益
小松院ゆす夜永三年小達立と開山
京國壬周作作奈北妙心寺延壽院

乃流下たり縁師大法師とぞもす
モ治行日峰山と尾列大山小谷く
勝泉寺達う内作と作りて因山の
祖とかつむ年海濱ちて樹生一
萬永十七年六月空日示寂と垂事
八十又寡列り中一小堂を守門
樂園西酒毒日峰泰史等ニガ一方
乃守候たり

摩尼山

人至六十三代淳和天皇乃
應宇天皇五年聖地如玄尼乃開基建立

在する如玄勝親音弘法大师楊樹と
聖地乃別號と號て送し
如玄尼の舟列余依勢人なり十景内
氣附水入常少如玄勝親音弘法大師楊樹と
法あひまへて聖地ノ聖地ノ聖地と聖門
いさご伊井弘法大師子す内具足小僧也
船使と源法大師子す后えみひくえ
次地かく後小岩保塔藤小く常少如
玄勝乃聖地と持て流露すわる長安
天女が金紙とあり天皇乙年二月十八日乃
聖母とあらへ御見えとせよ并列武庫
山如玄勝摩尼峯のやうりより又度

幽界乃冥界の山々は小石場と言
多リ寺跡をもとと石へをえふや
重かれた高家とのごとく山房と見えりと
勝地にて窮屈と見れすかと數所と
聖地志と古法地名とまゝと山房と
勝地とこそうれせんとあらう
山房と山下小やどとてやれて山房と
えふやと見れと山房ととせり是年十月
小房もとて山房ととせり是年十月
も勝地と信小屋ととせり是年十月
山房と山下小やどとてやれて山房と
えふやと見れと山房ととせり是年十月
も勝地と信小屋ととせり是年十月
聖地と山下小屋ととせり是年十月
也り經日三十二日かて勝地と因服故
害乃日地合掌化れして云有性阿掌
不二門中_{ナツ}有大寔名如玄君故大寔
蓬萊款喜納歎詔一切と云々此日地
自う般とぞりく三分かつて一とば大
船乃像小狀一とば文中小章一とば
弘法大師小狀一和あして具足太戒と
般と如玄とぞりくうどとの三事も
因付小般般とぞく如一如意とぞりく
嘉和二年二月廿日又文乃四般如如

玄尼有天向如玄勝呪と云かへ跋坐
会掌もしく遷

此犯行く一乃秘匿とて久きうそ

内とぞく御行をす天正二年大伏え
被せ一時守護とて海とよひかわそ

ひく法故とて海此乃秘匿とゆく
高法と修せ一々伏御天下小わまつ

万れ一時少く海ひど密り此匿ひゆ此
丹列乃曰間ふえ乃曰浦傳はとづ

りれとえく此より數百年のあ蓬莱乃
仙鄉小入天本二年小放里小泊此小

此蓋とあへて此これ紫雲巻と之へ
ととりを海移木乃如玄勝と刻附

如玄尼蓋と修升中か納ひやうく
此

勸 林寺

榜列武庫歎ニ武庫

ニシテナハ首祚切里若耶屋と称一姓船

乃根子陵室陳及び金甲洪冒弓矢金
鐵軍衣等と埋也クハ故ニ武庫と云

又六甲山大林す故小勃藍と名一降
如玄勝摩尼峯と号す勸林ちも

摩尼山林號ちも圓滿日一十九日ハ
弘法大師如玄尼が登乃モ野宿小辨

也セシム不に高窟小魔窟もてて然

觀音と造り安坐と痘和天皇の聖

妃如玄尼の跡已小世滅摩尼峯小逃

と弘法大師と成跡と云ふ仙多雲

宇と能事一高麗乃が玄法の

通毛リム不に高窟小魔窟もてて然

觀音と造り安坐と痘和天皇の聖

妃如玄尼の跡已小世滅摩尼峯小逃

と弘法大師と成跡と云ふ仙多雲

宇と能事一高麗乃が玄法の

通毛リム不に高窟小魔窟もてて然

觀音と造り安坐と痘和天皇の聖

妃如玄尼の跡已小世滅摩尼峯小逃

牛 林寺

森林立前島也

平頭山後圓寺

別列水田

今而代後創院康房二年大徳開山

大徳後陣寺を祀る北義善隆大徳自作

源仲名の家今と称す大圓院のアリ伝

とモク出處一傳持る大藏山頭和尚

小偈一くろ門と號す康房二年小び

もと創建一傳持る大藏山頭和尚

小寺事て後圓も一傳す又城中の寺山

小寺り三川を創建遂にものもどりく

近く三ヶちれ界延かり城之門を望

城内財物もと傳持ふと御源成とく

附一まゝ創建かみから三井寺山

桂院山と號すくとて勅付創て下野

ふゆり殿主石内毒移と不義一姫等

と一枚下小前と假ひ下やういは名

寺松野が風のまゝ又總持院にあり哉

山峰み被仰りより微疾とけく未だ

あらばたまへてのむく我所にて乃り

未嫁かと生るへく我生りてお地産

圓ちにと創我幻寂かりとくく矣段

頃と書どり承永十二年正月廿九日

秋七十六歳ゆく近紀一多り

往蓮寺

武庫山ふら西支より

延平寺

武庫山ふら西支より

二里餘支八方小高

狹迦臺

小林村小立山記可坐方

鶴立山

鶴立山小立山記可坐方

武庫乃山

むこ川並一高木山

じき山孫と連りひと山ある木立山有

木立木有とあつせり 東山 木立山

岩有 ひこの山川 浦 木立山

海波 木立山川 木立山

山と海と 木立山と 木立山

川ハヤシ山田乃山の西より 木立山

木立山有と 木立山有と 木立山

歌山東和海浦泊

武庫川ハ尼高アリテ一西の方にあ
ひ内然も候すかアミタ日もアシ首を

武庫村

毛ハ尼高アリ一里半かし

武庫ヶ瀬

じニシテ海東和

武庫ノ浦

もふふせり

じ未シテ海、傍り

山浦海川

佐吉アミタ

武庫泊

山浦浦

かの山をな海シ小浜シと云ふ。り西シ又シ
ある小浜シとすら出シの神シもあり矣
度シくろに海シきにせつこシゆく十三道
島シの因シよりひそと云いはれね
あり

度シ田シ渡シ

新前シあ席シらひシ
かくわたりシ 沖シ浦シ ぬ瀬シのそま
お國シの渡シ ごくらシ 朴シ地シ 高シ松シ 朴シ
人シを盡シいきまシ 朴シ地シの度シ 朴シ地シ 人シ
宋シ たえほまシ 朴シ地シ はあシの度シ 朴シ地シ 人シ
老シ たえほまシ 朴シ地シ はあシの度シ 朴シ地シ 人シ
朴シ地シ あかくまシ 朴シ地シ さや うち方シ か
成シ かの羽シ がく お塩シのまりに波シかの度シ 朴シ地シ 人シ
度シ 田シ 渡シ あ度シ 田シ 渡シ

鳥シ河シ 烏シ 河シ

西シ天シより一町シ 二シ
三シ 乃シ 蒼シ 僮シ あむすりシ 二シ 三シ 乃シ
金シ どもうシ かくとシ 三シ

津シ 戸シ 村シ

はあシも はあシ 仲シ みシ はあシ 仲シ みシ

147947

